

大和アセットマネジメント 資産運用普及センター

2026年3月24日

# 「投資家への壁」を探る1万人アンケート

—投資初心者と投資関心層に対するアンケート調査—



未来を見上げた、その先に。

ファイナンシャル・ウェルビーイング

# 目次

1	調査概要	02
2	調査結果の要旨	04
3	投資前の意識と実態	10
4	投資後の意識と実態	18
5	金融リテラシーと金融経済教育	25
6	情報収集手段とコミュニケーション人数	32
7	APPENDIX   属性	36
8	APPENDIX   パーソナリティの測定方法	40

# 1.調査概要

# 1-1.調査概要

- **調査目的** : 投資初心者と投資に関心のある未投資者の様々な差を把握することで「投資家への壁」を明らかにし、個人が投資を始めるために必要な要素を分析する
- **調査方法** : インターネット調査
- **調査地域** : 日本国内在住（全国）
- **調査対象** : 20-79歳の男女個人 ※関連業種（金融業界、市場調査、マスコミ、広告代理店）の従事者を除外
- **有効回収数** : 10,948サンプル
- **調査時期** : <スクリーニング調査> 2025年9月17日（水）～9月22日（月）  
<本調査> 2025年9月26日（金）～9月29日（月）

■ **ウェイトバック** : 有  
■ **サンプル数内訳**

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
投資初心者 (従業員持株会以外で2020年以降に投資を開始した人)	男性	545 (612)	763 (575)	845 (445)	819 (359)	442 (315)	213 (154)	5,692
	女性	262 (244)	398 (292)	441 (264)	405 (237)	323 (206)	236 (191)	(3,894)
投資関心あり & 未投資者 (投資に対する関心度(7段階)で上位3つに該当する人)	男性	479 (687)	497 (669)	644 (840)	578 (769)	222 (298)	140 (189)	5,256
	女性	567 (787)	565 (754)	672 (883)	558 (736)	209 (274)	125 (168)	(7,054)

\* 本調査では投資の定義を、従業員持株会以外の投資性商品（株式、債券、投資信託、外貨預金、FX、暗号資産、金など）を保有していることとする  
 \* 2020年度国勢調査結果をベースに加齢したデータの「性別×年代（10歳刻み）」構成比に準拠したスクリーニング調査での「『投資初心者/投資関心あり & 未投資者』×『性別』×『年代（10歳刻み）』」構成比に合うように有効回収サンプルに対してウェイトバック集計を実施  
 \* 上段：有効回収サンプル数 下段：ウェイトバック後のサンプル数  
 \* 以降のページではウェイトバック後のサンプル数を使用（投資初心者：n=3,894、投資関心あり & 未投資者：n=7,054）

## ■ 投資への関心度

	とても 関心がある	関心がある	やや 関心がある	どちらとも いえない	あまり 関心はない	関心はない	まったく 関心はない
投資初心者	26.2%	28.9%	29.9%	10.4%	3.6%	0.8%	0.3%
投資関心あり & 未投資者	8.6%	21.5%	69.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 2.調査結果の要旨

## 2-1.調査結果の要旨

『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の違いは主に4点ある。

- 1点目として、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の間には、**パーソナリティ（性格特性）**に違いがあると考察される。『投資に関心のある未投資者』は『投資初心者』と比べて、「協調性」と「神経症傾向」が高い割合が多く、まわりを気にし、心理的にストレスを受けやすい性格特性によって、投資への第一歩が踏み出しにくくなっていると考えられる。 p.8
- 2点目として、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の間には、**情報収集態度**に違いがあると考察される。『投資初心者』は投資に興味・関心を持った後、Google等の検索エンジンやYouTubeによる自立・能動的な情報収集を行っている割合が高いのに対し、『投資に関心のある未投資者』は投資に興味・関心を持った後、家族や友人・知人に聞くといった幾分受動的な情報収集にとどまる割合や特に何もしていない割合が高く、自立・能動的な情報収集に消極的である傾向がみられた。 p.13
- 3点目として、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の間には、**検討から行動に移るまでの期間**に違いがあると考察される。『投資初心者』は投資に興味・関心を持った後、投資について検討している期間が「3カ月未満」と比較的短い傾向にあるのに対し、『投資に関心のある未投資者』は投資に興味・関心を持った後、投資について検討している期間が「1年以上」と比較的長い傾向にあった。 p.15
- 4点目として、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の間には、**金融リテラシー**に違いがあると考察される。『投資に関心のある未投資者』は『投資初心者』と比べて、特に「複利」分野の問題に対する正答率が低くなっていた。『投資初心者』も『投資に関心のある未投資者』も、投資を始める前の障壁として「投資に関する知識不足」を1位に挙げているが、投資を始める前に「複利」への理解度を高められるかがポイントになりそうだ。 p.26

これらから『投資に関心のある未投資者』は以下のような状態にあると考えられる。

まず『投資に関心のある未投資者』は「協調性」と「神経症傾向」が高い傾向があることで、まわりを気にし、心理的にストレスを受けやすく、そのため自身の将来の生活に対し漠然とした不安を抱える一方、その不安を解消する手段である投資に興味・関心を持っている。そこで投資を検討するが、「**投資家への壁**」が3つ立ちただかる。

第1の壁は、自立・能動的な情報収集に消極的な態度によって情報を十分に入手することができない「**情報の壁**」である。

第2の壁は、情報不足によって投資に関する知識の理解までたどり着かない「**理解の壁**」である。

第3の壁は、理解不足によって投資に対する漠然とした不安が解消されづらく、検討期間が長引き、投資を始めると決断できない「**決断の壁**」である。

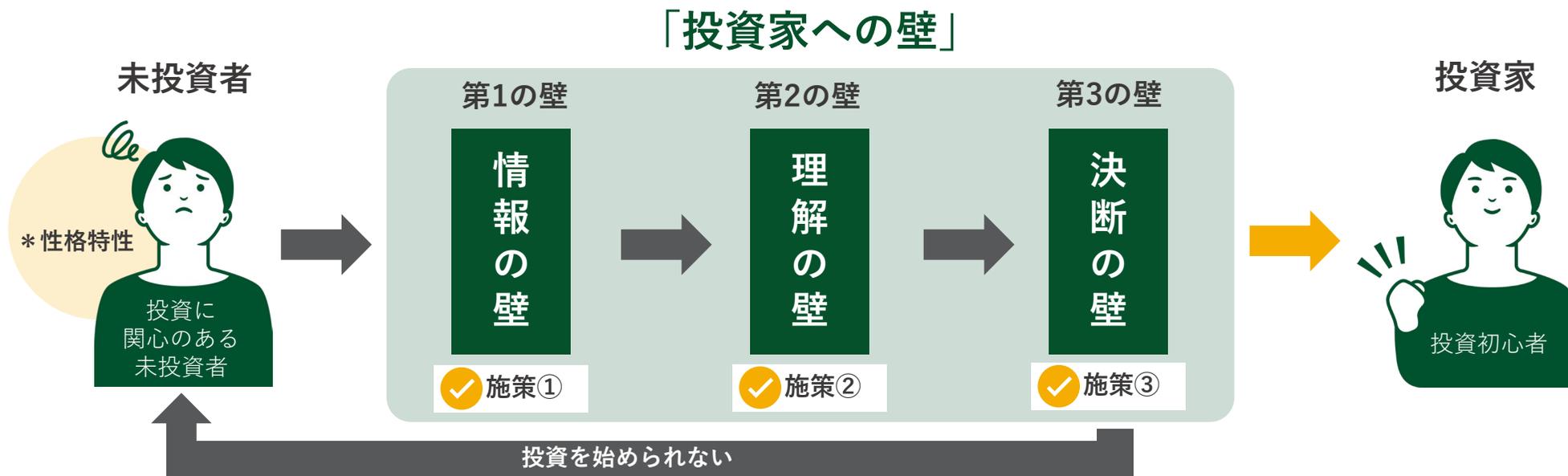
したがって『投資に関心のある未投資者』を『投資初心者』にステップアップさせるためには、性格特性に配慮した、①自立的な情報収集を促すようなコンテンツやサポート等、②知識不足による不安を緩和するようなコンテンツやサポート等、③投資に関心を持った初期における高頻度の情報提供等の施策が求められよう。



# 3つの「投資家への壁」から示唆される施策とは

- 『投資に関心のある未投資者』が投資の第一歩を踏み出せない構造には、3つの「投資家への壁」があると推察される。
- 『投資に関心のある未投資者』が『投資初心者』へステップアップするには、前頁で記した性格特性（\*）に配慮した、第1～第3の壁に対応する下記の施策①～③が必要だ。

\* 性格特性：「協調性」と「神経症傾向」が高いことで、まわりを気にし、心理的にストレスを受けやすい性格特性のこと



## ■ 「投資家への壁」とその施策

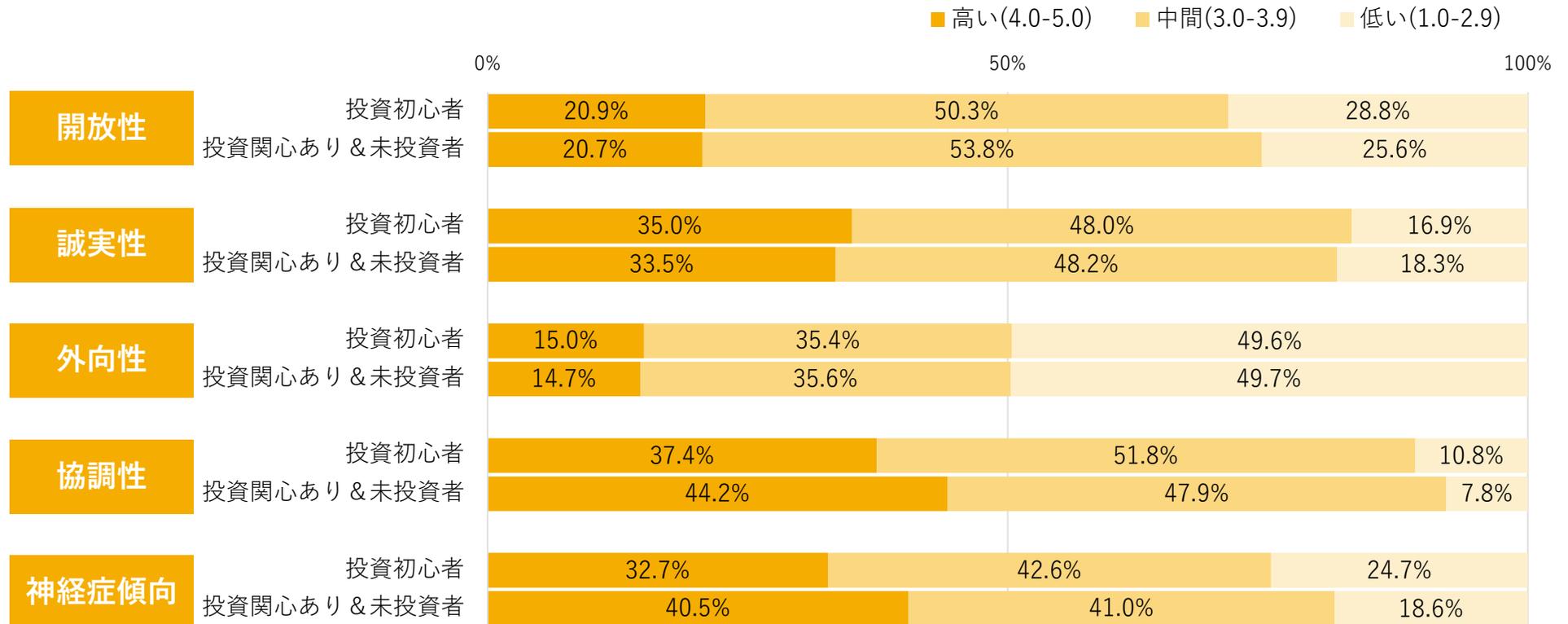
	内容	施策
【第1の壁】情報の壁	自立・能動的な情報収集に消極的な態度によって、情報を十分に入手できない	施策①：自立的な情報収集を促すコンテンツやサポート等
【第2の壁】理解の壁	投資に関する知識の理解までたどり着かず、心理的不安が解消されづらい	施策②：知識不足による不安を緩和するコンテンツやサポート等
【第3の壁】決断の壁	投資を検討する期間が長期化し、なかなか決断できない	施策③：投資に関心を持った初期における高頻度の情報提供等

# Big Fiveに基づくパーソナリティ（性格特性）の5因子比較

- 開放性・誠実性・外向性の3因子では、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の間に大きな差はみられない。
- 一方、協調性・神経症傾向の2因子では、『投資に関心のある未投資者』が『投資初心者』よりも高い傾向がみられた。

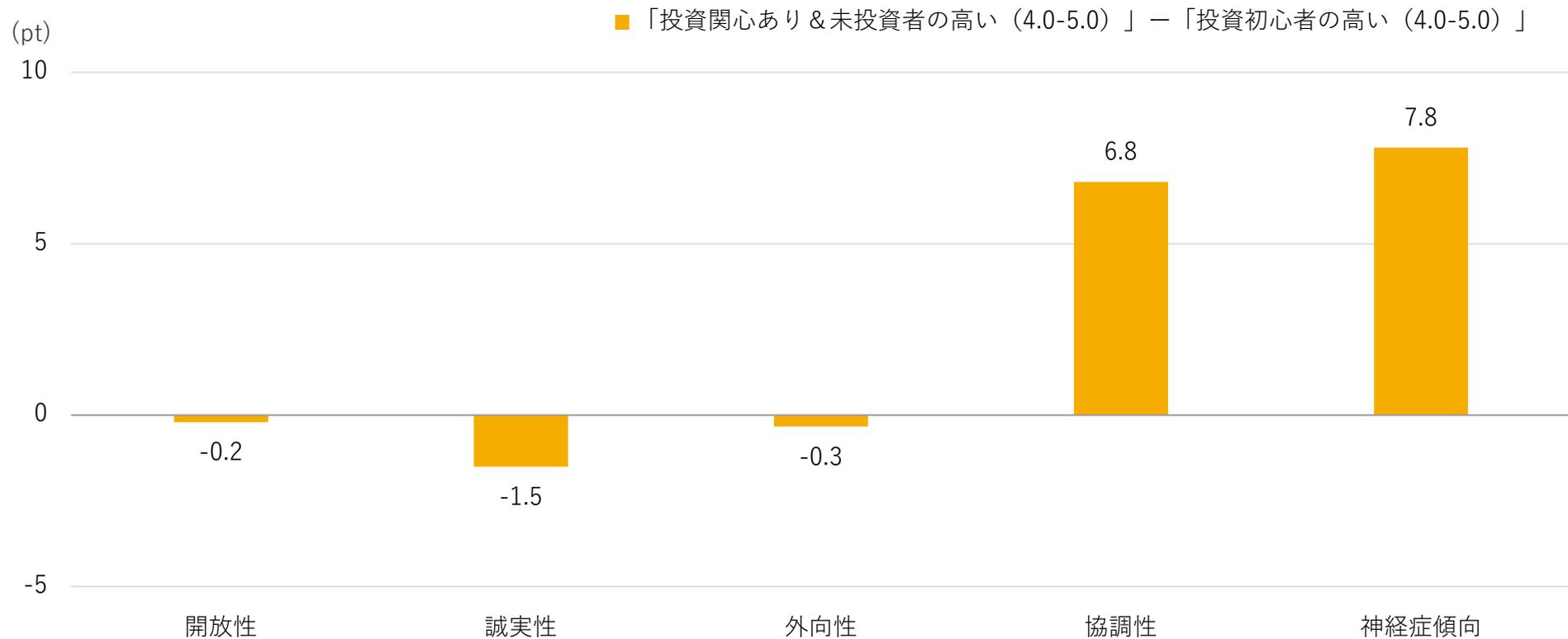
\* Big Fiveとは、人間が持つ様々な性格は、開放性（Openness）、誠実性（Conscientiousness）、外向性（Extraversion）、協調性（Agreeableness）、神経症傾向（Neuroticism）の5つの因子で説明できるとする心理学の理論のこと

\* Big Fiveの説明とBig Fiveを測定した設問と選択肢は、p.40-43を参照



# Big Fiveに基づくパーソナリティ（性格特性）の差

- 協調性の「高い」割合は、『投資初心者』に比べて『投資に関心のある未投資者』が6.8ポイント高い。
- 神経症傾向の「高い」割合は、『投資初心者』に比べて『投資に関心のある未投資者』が7.8ポイント高い。

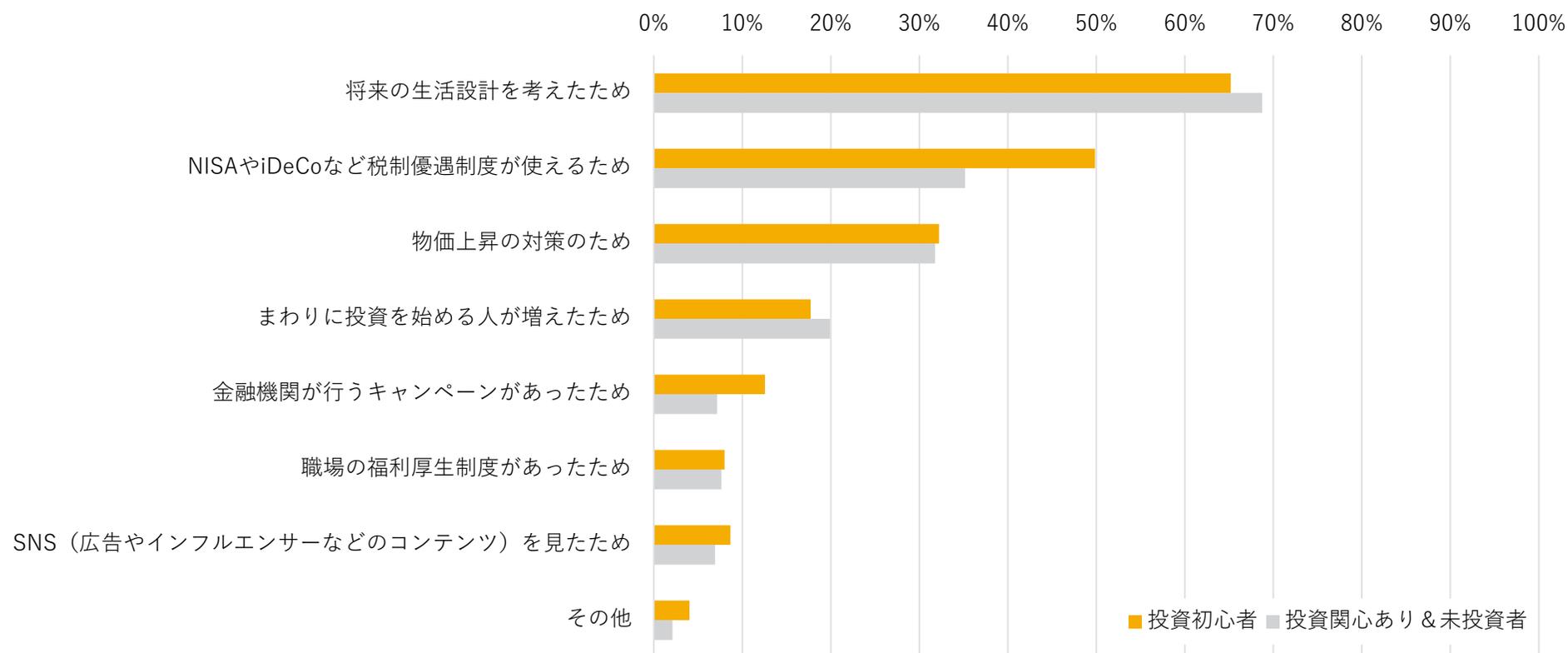


### 3.投資前の意識と実態

## 3-1.投資に興味・関心を持ったきっかけ

■ 『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに、「将来の生活設計を考えたため」が最も高い。

Q. 投資に興味・関心をもったきっかけとして、あなたにあてはまるものをお答えください。

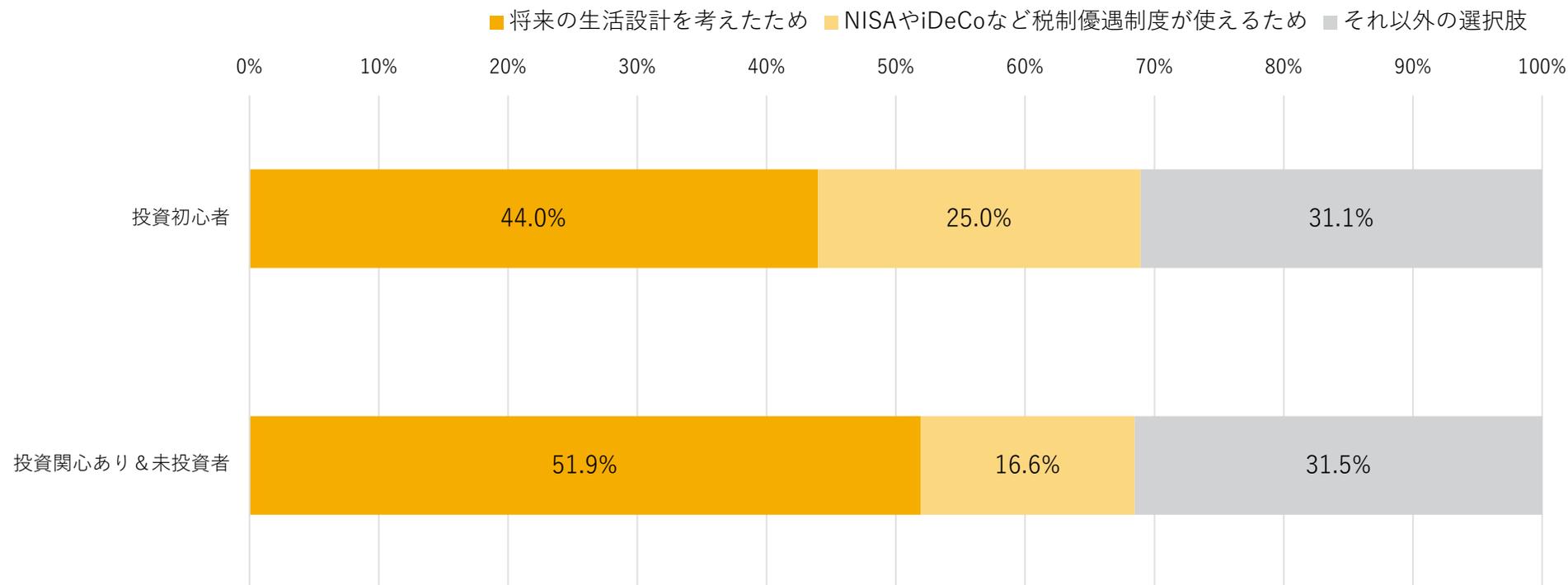


\* 複数回答可

## 3-2.投資に興味・関心を持った最大のきっかけ

- 単一回答の「投資に興味・関心を持った最大のきっかけ」では、『投資に関心のある未投資者』は『投資初心者』と比べて「NISAやiDeCoなど税制優遇制度が使えるため」をきっかけとする割合が低い。

Q. 投資に興味・関心をもったきっかけとして、あなたにあてはまるものをお答えください。



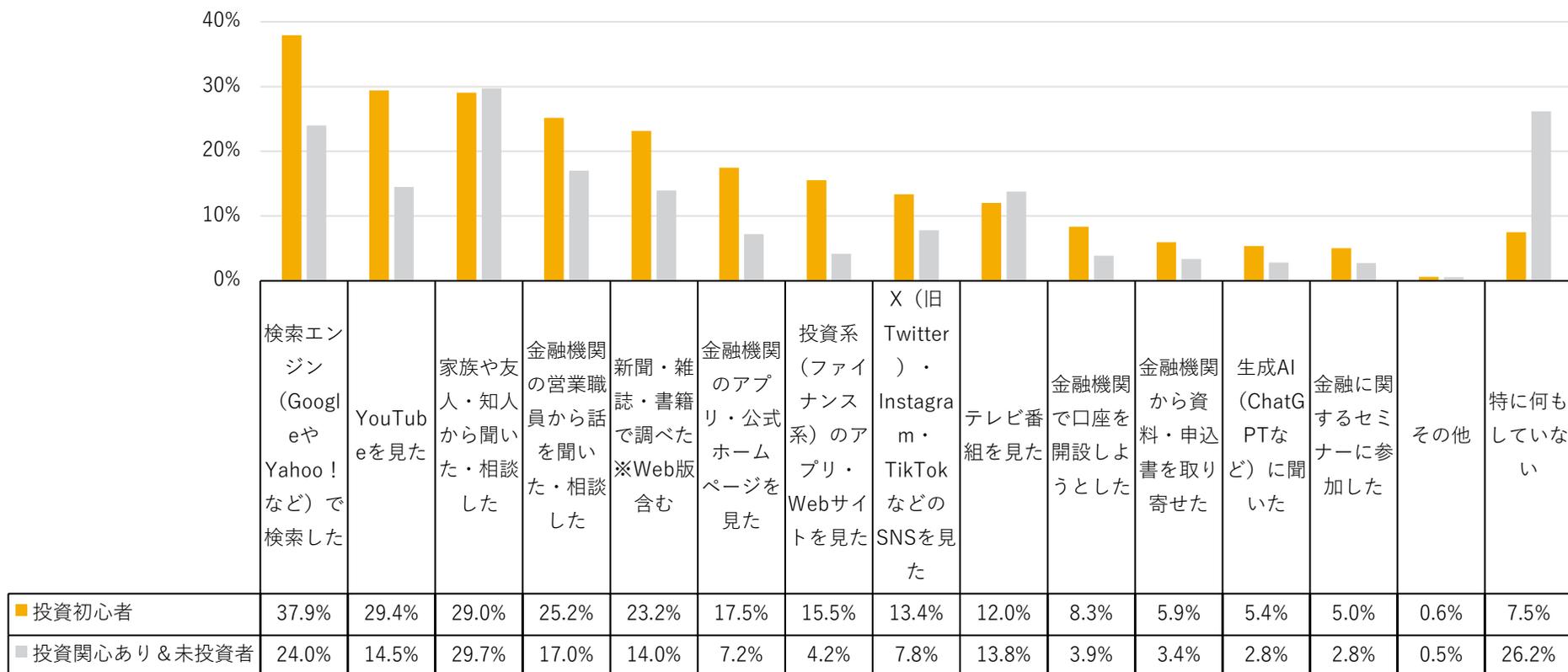
\* 単一回答

\* それ以外の選択肢は、「物価上昇の対策のため」「まわりに投資を始める人が増えたため」「SNS（広告やインフルエンサーなどのコンテンツ）を見たため」「金融機関が行うキャンペーンがあったため」「職場の福利厚生制度があったため」「その他」

### 3-3.投資に興味・関心を持ったあとの情報収集方法

- 『投資初心者』は「検索エンジンで検索した」「YouTubeを見た」の割合が高く、自立・能動的に情報収集をしているとみられる。
- 『投資に関心のある未投資者』は「家族や友人・知人から聞いた・相談した」「特に何もしていない」の割合が高く、自立・能動的な情報収集に消極的とみられる。

Q. 投資に興味・関心をもった後、あなたはどのような方法で情報収集しましたか。あてはまるものをすべてお答えください。

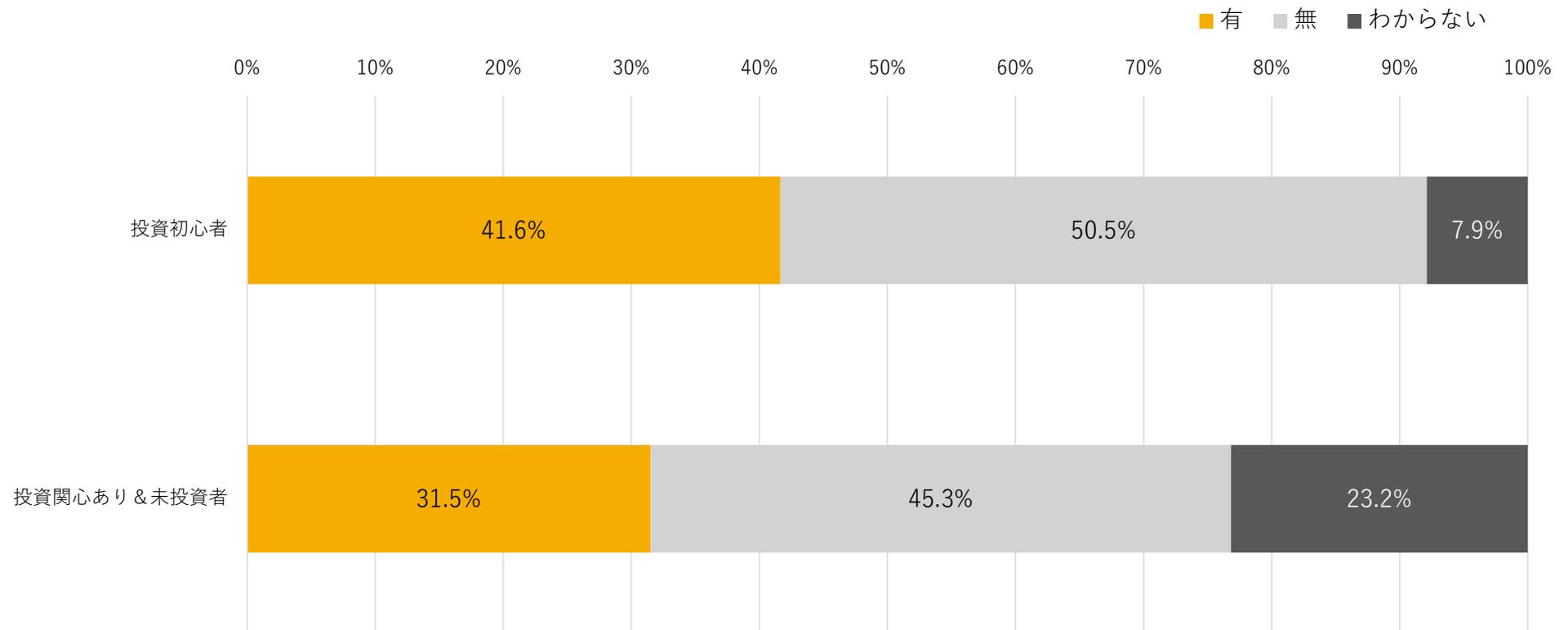


\* 複数回答可

## 3-4. 家族内投資者の有無

- 『投資初心者』は『投資に関心のある未投資者』に比べて、家族内投資者の割合が高い。
- 『投資に関心のある未投資者』は「わからない」の割合も約2割存在している。

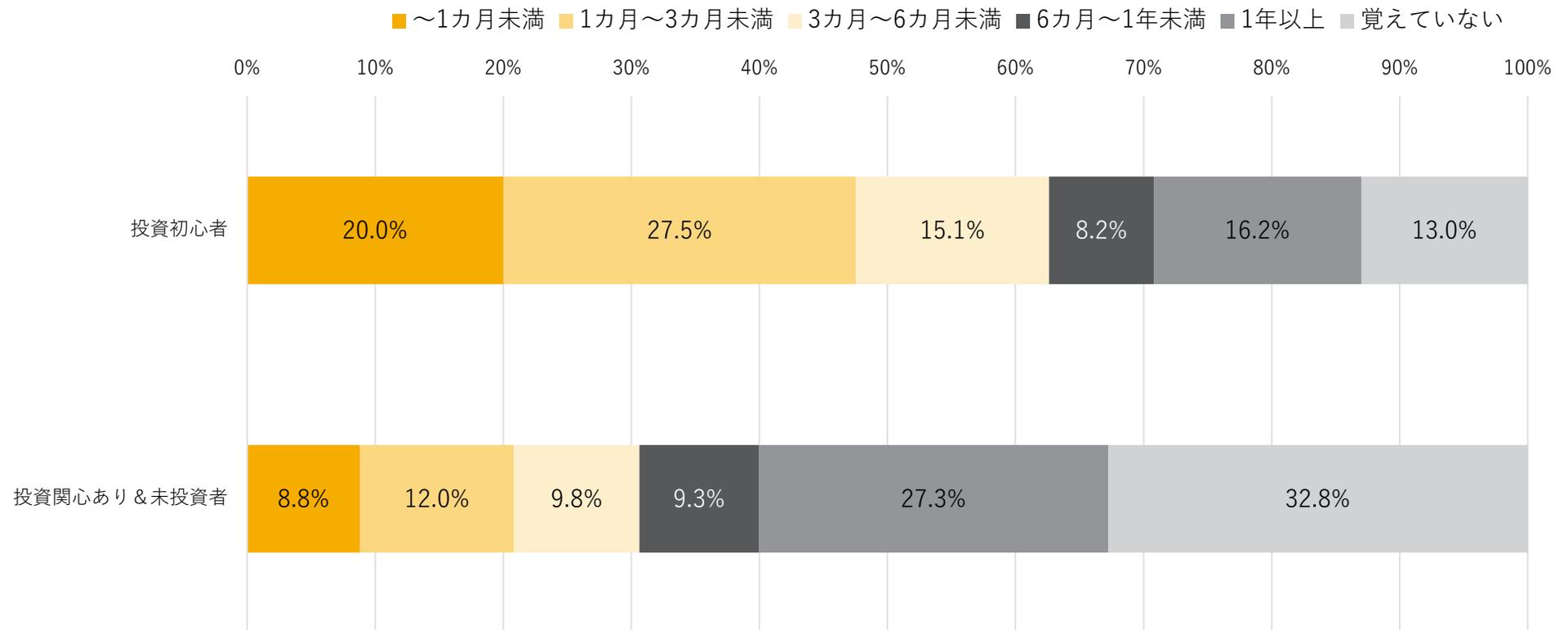
Q. 【投資初心者】あなたが初めて投資する前に、ご家族で投資をしている方（投資をしていた方）はいましたか。  
Q. 【投資関心あり&未投資者】あなたのご家族に、投資をしている方（投資をしていた方）はいますか。



## 3-5.投資について検討した期間

- 『投資初心者』は「～1カ月未満」「1カ月～3カ月未満」の割合が約半数を占めている。
- 『投資に関心のある未投資者』は「～1カ月未満」「1カ月～3カ月未満」の割合が約2割で、『投資初心者』に比べて検討期間が長い傾向がある。

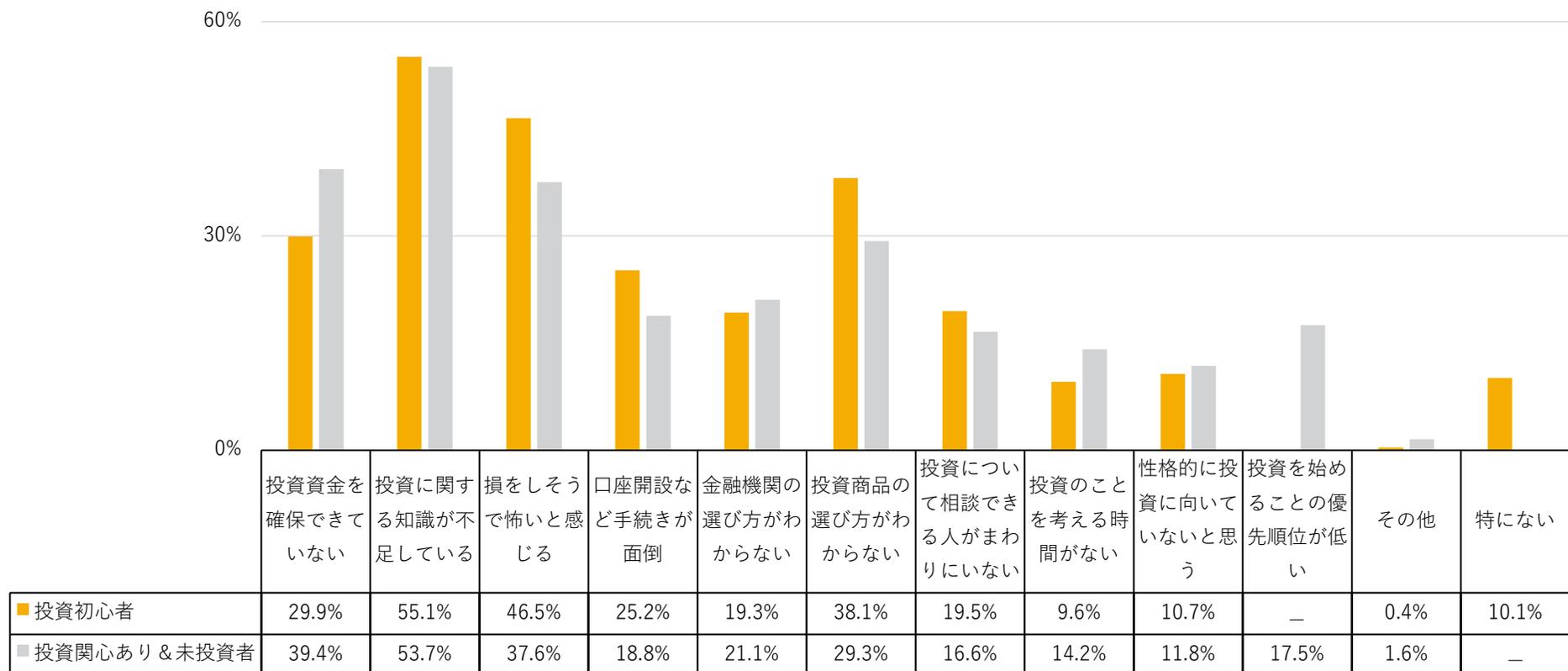
Q. 投資に興味・関心をもった後、あなたが「投資を始めるかどうか」について検討した期間としてあてはまるものをお答えください。



### 3-6.投資を始める前の抵抗感・障壁/投資をまだ始めていない理由

- 『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに「投資に関する知識不足」の割合が最も高い。
- 両者の差に着目すると、『投資初心者』は「投資商品の選び方がわからない」の割合が高い一方、『投資に関心のある未投資者』は「投資資金を確保できていない」の割合が高い。

Q. 【投資初心者】投資を始める際にあった投資に対する抵抗感や障壁として、あなたにあてはまるものをすべてお答えください。  
 Q. 【投資関心あり&未投資者】あなたが、まだ投資を始められていない理由として、あてはまるものをすべてお答えください。



\* 複数回答可

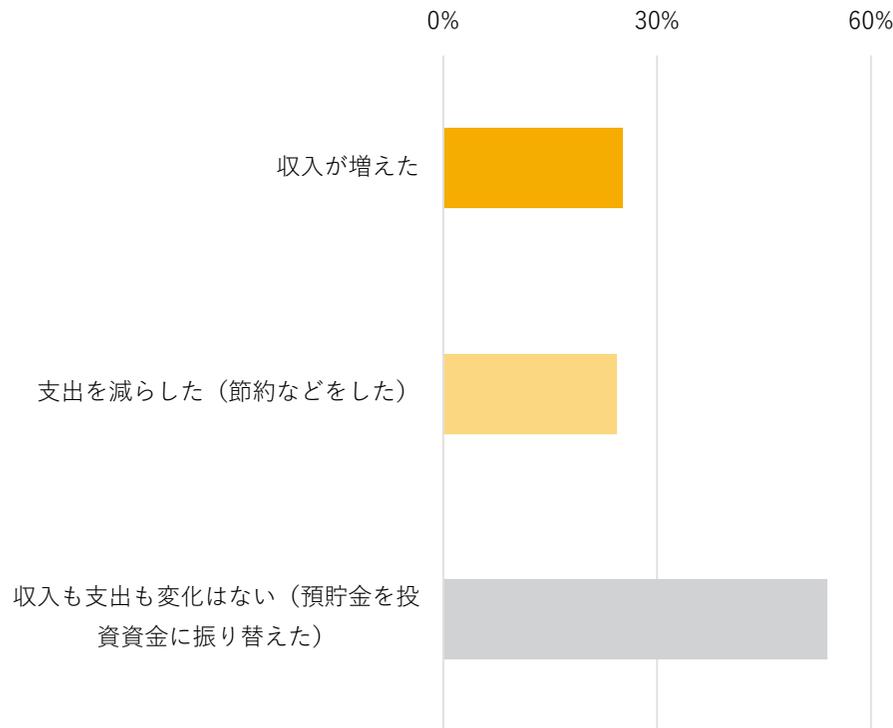
# 3-7.投資資金を確保するための収入・支出の変化

※投資初心者のみ設問

- 『投資初心者』は、投資資金の確保にあたっては収入増や節約よりも預貯金をシフトした割合が高い。
- 収入の増加要因では、「賃上げ・昇進（本業）による」の割合が高く、支出を減らした費目では「娯楽・交際費」の割合が高い。

Q. 投資資金を確保するにあたり、あなたの収入・支出は変化しましたか。  
 Q. 「収入が増えた」と回答した方におうかがいします。収入が増えた要因として、あなたにあてはまるものをすべてお答えください。  
 Q. 「支出を減らした（節約などをした）」と回答した方におうかがいします。節約などで支出を減らした費目として、あなたにあてはまるものをすべてお答えください。

## ■収入・支出の変化



\* 複数回答可

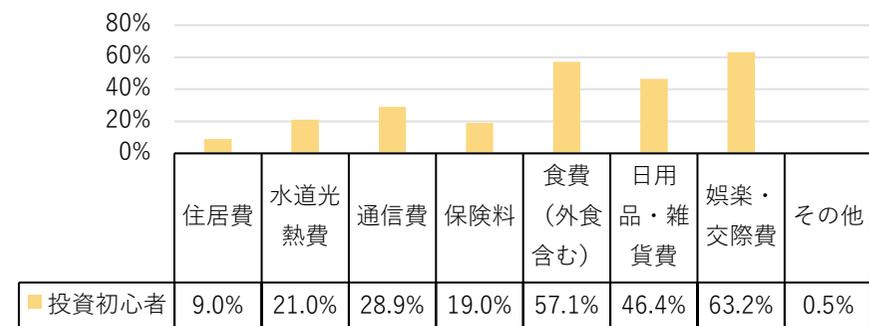
## ■収入増加要因



\* 投資の利益は、値上がり益・配当金などを指す

\* 複数回答可

## ■支出を減らした費目



\* 複数回答可

## 4.投資後の意識と実態

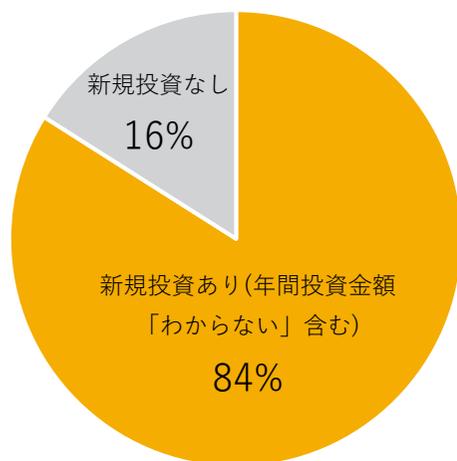
# 4-1.2024年の新規投資の有無と投資金額

※投資初心者のみの設問

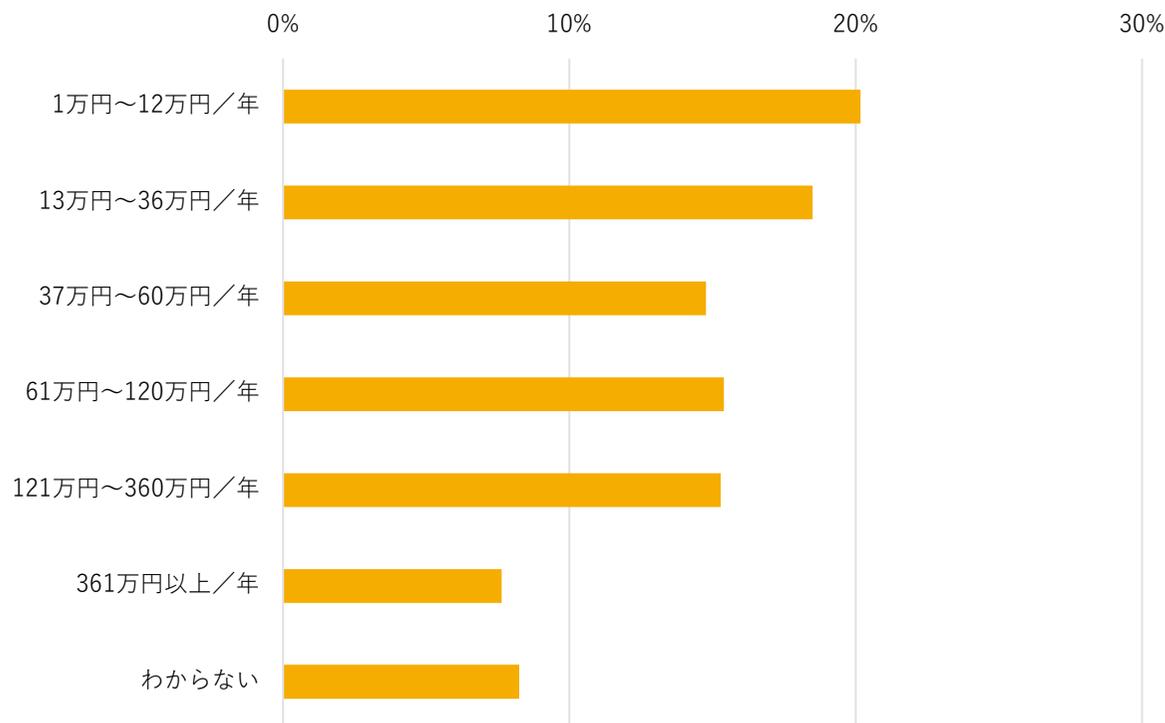
- 2024年の1年間で新規投資（※資金の追加も含む）をしている人の割合は8割を超えている。
- 2024年の1年間の投資金額では、「1万円～12万円/年」の割合が最も高く、次に「13万円～36万円/年」となっている。

Q. 昨年（2024年1月～12月）のあなたの年間投資金額をお答えください。  
※1万円未満の場合は、「1万円～12万円/年」をお選びください。

■2024年の新規投資の有無



■2024年の投資金額



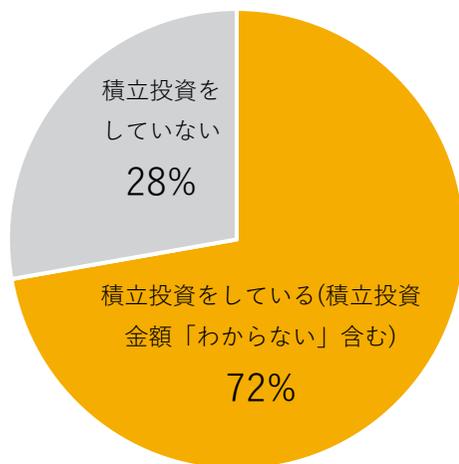
## 4-2.毎月の積立投資の有無と積立投資金額

※投資初心者のみ設問

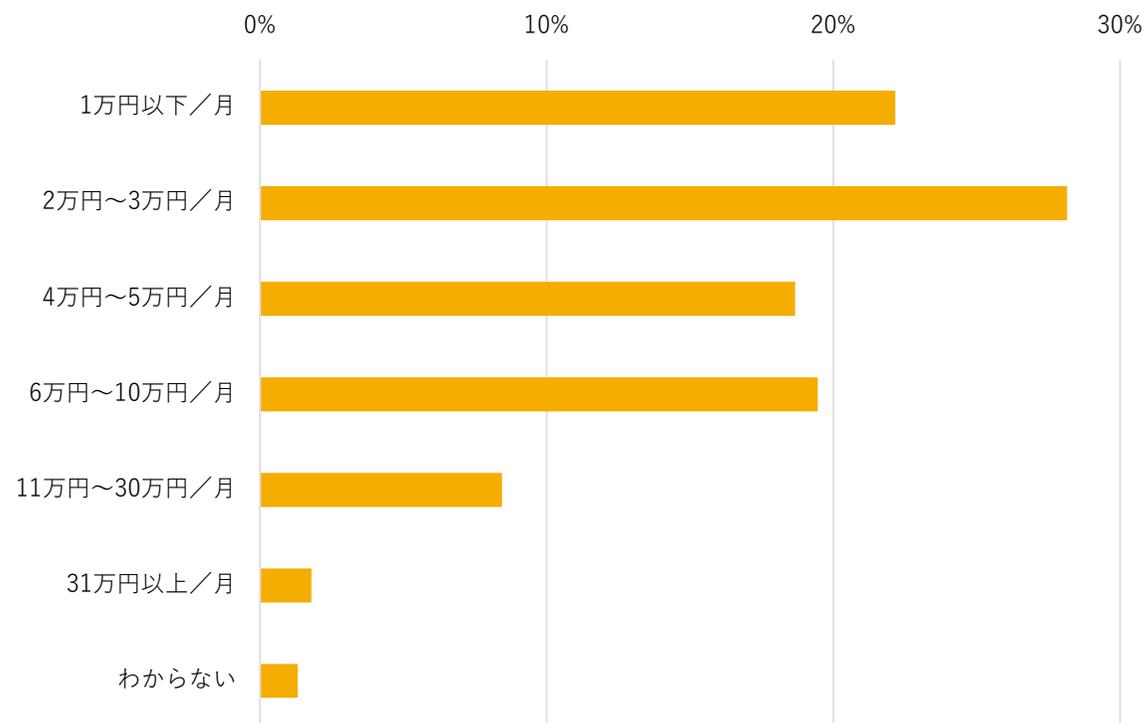
- 毎月の積立投資をしている人の割合は7割を超えている。
- 毎月の積立投資金額は、「2万円～3万円/月」の割合が最も高く、次に「1万円以下/月」となっている。

Q. あなたは、積立投資をしていますか。積立投資をしている方は、毎月の積立金額をお答えください。  
※以下の選択肢のうち、最も近いものをお答えください。

■ 毎月の積立投資の有無



■ 毎月の積立投資金額

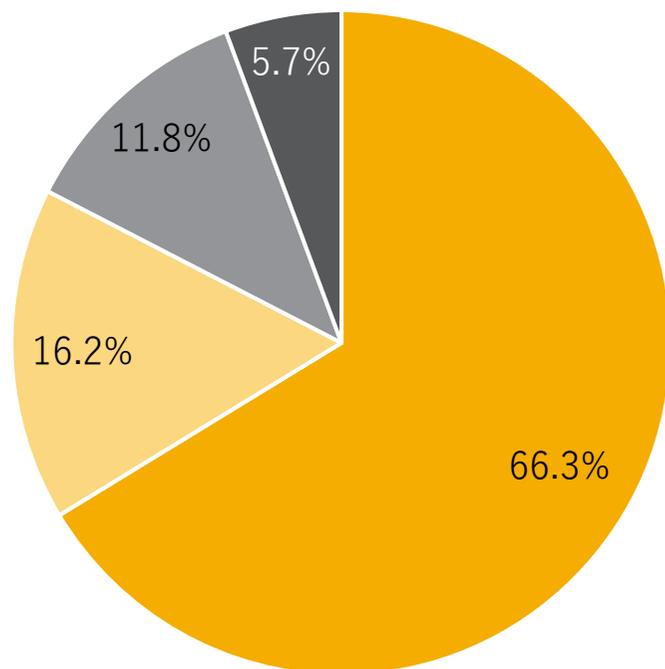


## 4-3.現在の投資の経済的・心理的負担の有無

※投資初心者のみ設問

- 現在の投資が「足もと経済的に無理がなく、今後投資を続ける上で心理的に無理がない」の回答割合が6割を超え、『投資初心者』は無理のない範囲で投資をしている傾向がみられた。

Q. 現在の投資は、経済的・心理的に無理のない範囲で行えていると感じますか。



- 足もと経済的に無理がなく、今後投資を続ける上で心理的に無理がない
- 足もと経済的に無理はないが、今後投資を続ける上で心理的に無理がある
- 足もと経済的に無理はあるが、今後投資を続ける上で心理的に無理がない
- 足もと経済的に無理があり、今後投資を続ける上で心理的に無理がある

## 4-4.投資による利益を大きくするために重視していることの優先順位

※投資初心者のみ設問

- 実際に回答があった16パターンのうち、回答割合が多かったのは、最も重視することが「投資対象の収益性」、2番目に重視することが「投資金額」、3番目に重視することが「投資期間」の組み合わせだった。
- 「投資対象の収益性」に注目すると、回答割合1位・2位あわせて約3割の人が「最も重視すること」と回答している。一方、回答割合3位・4位あわせて約25%の人は「2番目に重視すること」と回答していた。

Q. 投資による利益を大きくするために、あなたが現在重視していることについて、優先順位の高いことから順に3つお答えください。

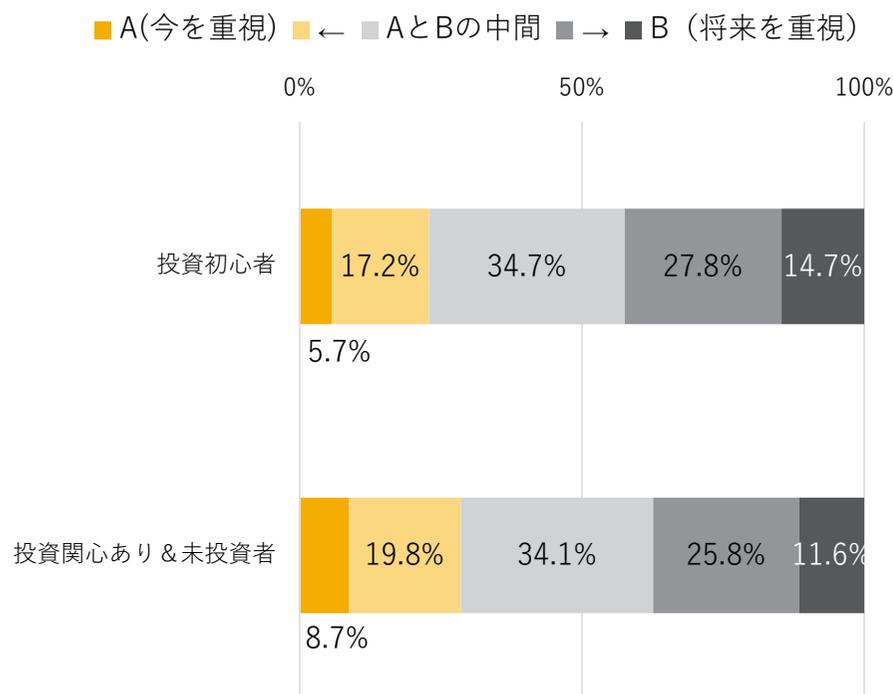
	最も重視すること	2番目に重視すること	3番目に重視すること	回答割合
1位	投資対象の収益性	投資金額	投資期間	15.9%
2位	投資対象の収益性	投資期間	投資金額	13.6%
3位	投資期間	投資対象の収益性	投資金額	12.7%
4位	投資金額	投資対象の収益性	投資期間	12.4%
5位	特にない	特にない	特にない	11.8%
6位	投資期間	投資金額	投資対象の収益性	10.4%
7位	投資金額	投資期間	投資対象の収益性	9.0%
8位	投資対象の収益性	特にない	特にない	2.6%
9位	投資期間	特にない	特にない	2.4%
10位	投資期間	投資対象の収益性	特にない	2.3%
11位	投資対象の収益性	投資金額	特にない	2.3%
12位	投資対象の収益性	投資期間	特にない	2.1%
13位	投資期間	投資金額	特にない	1.0%
14位	投資金額	投資対象の収益性	特にない	0.9%
15位	投資金額	投資期間	特にない	0.4%
16位	投資金額	特にない	特にない	0.3%

## 4-5.現在のお金の使い方/ありたい姿のお金の使い方

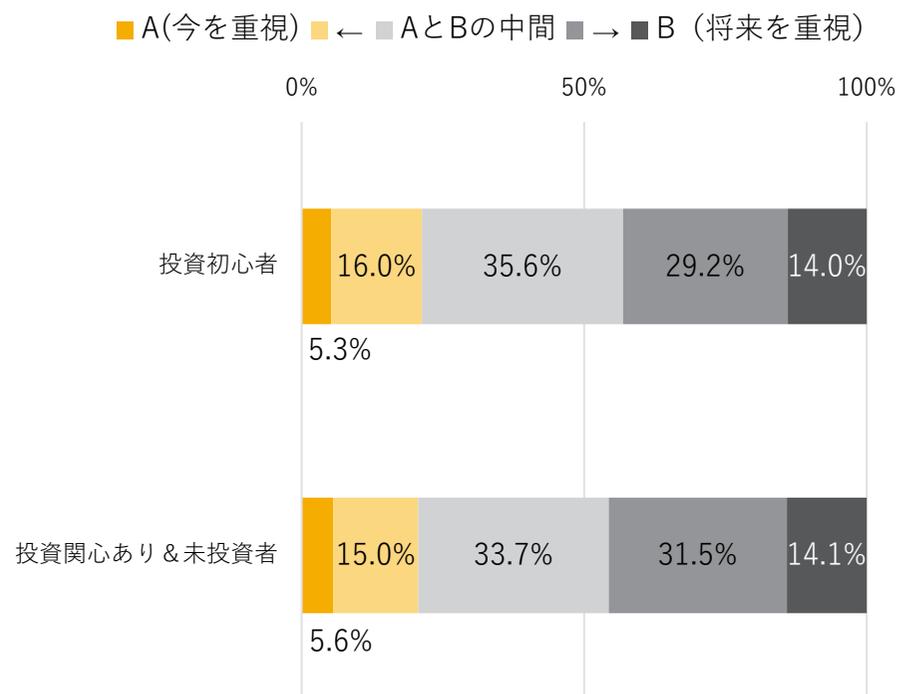
- 現在のお金の使い方では、『投資初心者』は「将来を重視」の割合が高く、『投資に関心のある未投資者』は「今を重視」の割合が高い。ありたい姿のお金の使い方では、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の回答の分布に大きな差はみられなかった。
- 『投資初心者』は、現在とありたい姿のお金の使い方が近くなっている。

Q. 「お金の使い方」について、次のAからBの間で、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。  
 A=「今を重視」…お金について、今しかできないことには積極的にお金を使うことを重視する価値観  
 B=「将来を重視」…お金について、将来に向けて積極的にお金を蓄えることを重視する価値観 ※どちらか一方の価値観が優れているということはありません。

■現在のお金の使い方



■ありたい姿のお金の使い方

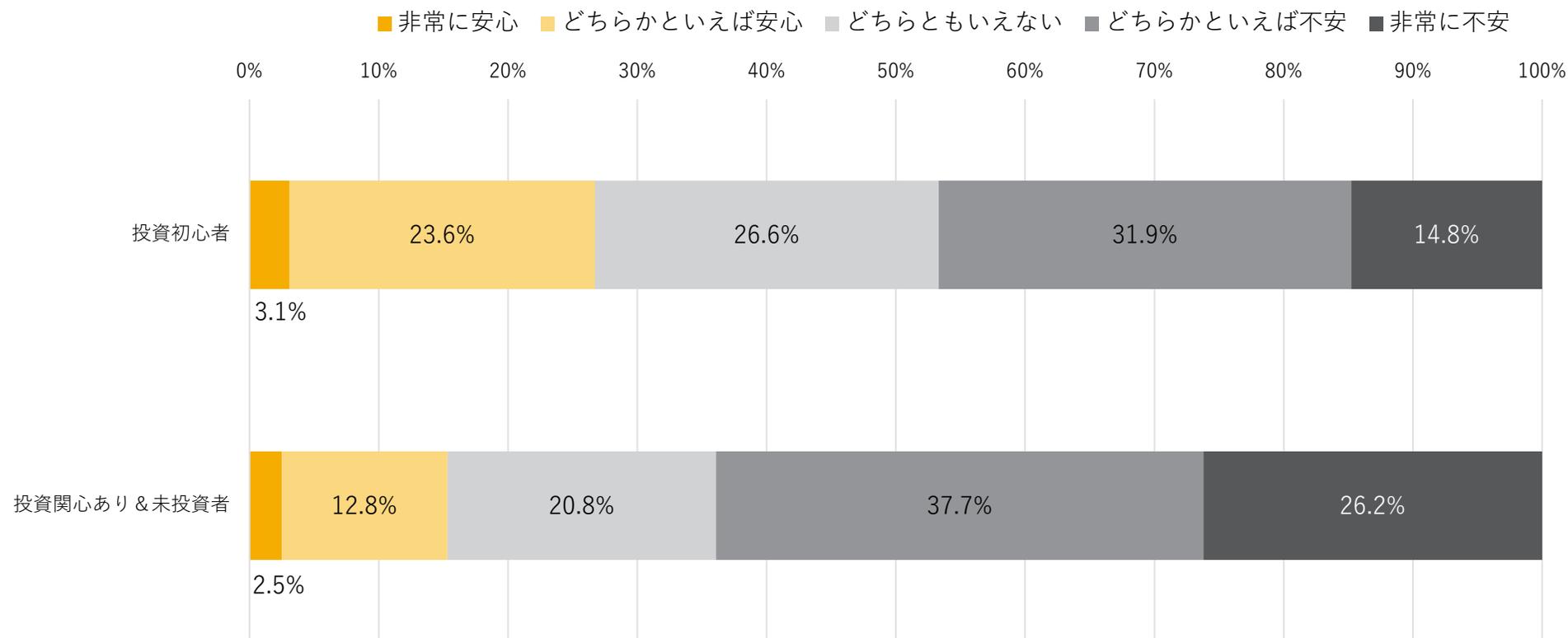


## 4-6. 将来の経済状況安心度

- 『投資初心者』は『投資に関心のある未投資者』と比べて、「安心（非常に安心、どちらかといえば安心）」の割合が高い。
- 『投資に関心のある未投資者』は『投資初心者』と比べて、「不安（非常に不安、どちらかといえば不安）」の割合が高い。

Q. あなたはこれからの生活や人生を送る上で、どの程度経済的な安心感を感じていますか。

①非常に安心 ②どちらかといえば安心 ③どちらともいえない ④どちらかといえば不安 ⑤非常に不安



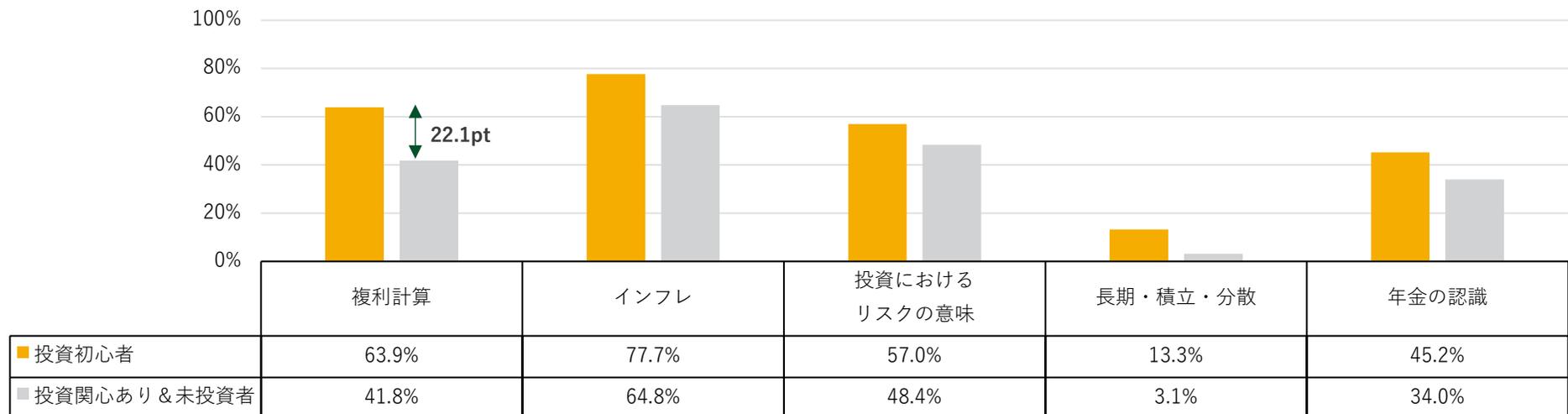
## 5.金融リテラシーと金融経済教育

# 5-1.金融リテラシーに関する設問の正答率

『投資に関心のある未投資者』は『投資初心者』と比べると正答率が低い。『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の間でみられる差では、「複利計算」の差が22.1ポイントと最も大きい。

複利計算	Q. 100万円を2%（年率）の単利で運用すると、1年後には102万円になります。100万円を2%（年率）の複利で運用すると、5年後にはいくらになっていると思いますか。 ①110万円より少ない ②ちょうど110万円 ③110万円より多い（正解） ④わからない
インフレ	Q. インフレとは、モノの値段が継続的に値上がりする状態を指し、実質的なお金の価値が目減りします。インフレになると、1万円で購入できるモノの量は時間の経過とともにどうなると思いますか。 ①増える ②変わらない ③減る（正解） ④わからない
投資におけるリスクの意味	Q. 投資における「リスクが大きい」とは、どのような意味を指すと思いますか。 ①運用成果が「大きく減る可能性」があることのみを指す ②運用成果が「大きく増える可能性」と「大きく減る可能性」の両方があることを指す（正解） ③わからない
長期・積立・分散	Q. 一般的に、投資で成果を上げるには「長期・積立・分散」投資をした方がよいと言われます。「長期・積立・分散」投資の効果として、あてはまると思うものをすべてお答えください。 ①元本が保証される ②購入価格を平準化できる（正解） ③短期で投資成果を得られる ④複利効果を得られる（正解） ⑤市場環境の変化に左右されにくくなる（正解） ⑥リスクが増大する ⑦収益のブレを小さくすることを期待できる（正解） ⑧わからない
年金の認識	Q. 原則65歳以上は全員、老齢基礎年金（国民年金）が受け取れます。保険料の納付期間である20歳から60歳までの40年間、漏れなく保険料を納付した場合、1カ月あたり何円の老齢基礎年金を受け取れると思いますか。※会社員などが上乘せとして受け取れる老齢厚生年金は含みません。 ①5万円未満 ②5万円以上～10万円未満（正解） ③10万円以上～15万円未満 ④15万円以上 ⑤わからない

※【長期・積立・分散】のみ複数回答で、「不正解」を選択せず「正解」の選択肢4つをすべて選択した場合のみ「正答」とカウントしている



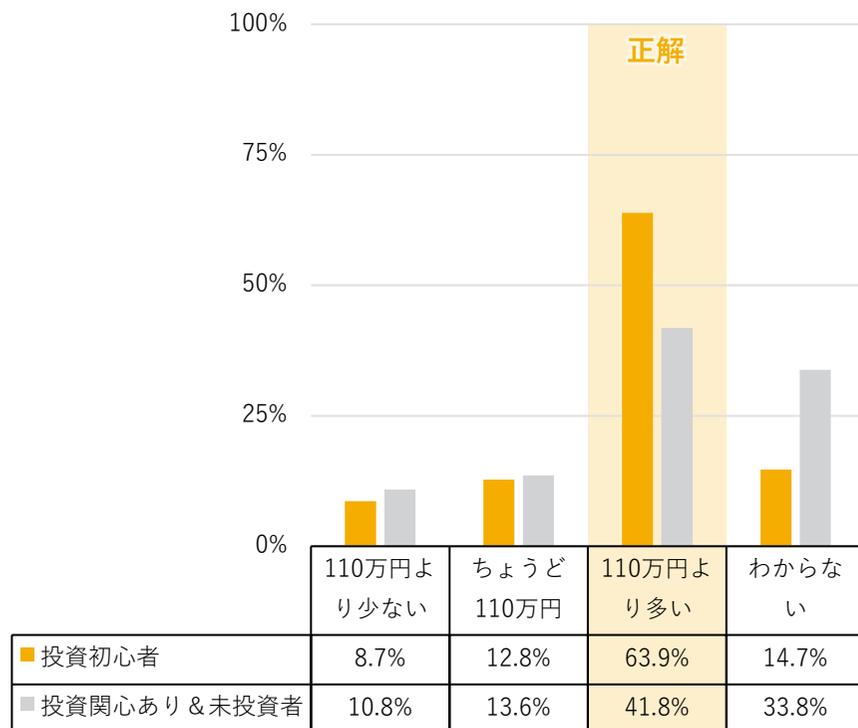
## 5-2-1. 【金融リテラシー】複利計算/インフレ

- 「複利計算」では『投資初心者』は正答率が過半を上回り60%台、『投資に関心のある未投資者』は過半を下回り40%台だった。
- 「インフレ」では『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに、正答率が過半を上回った。

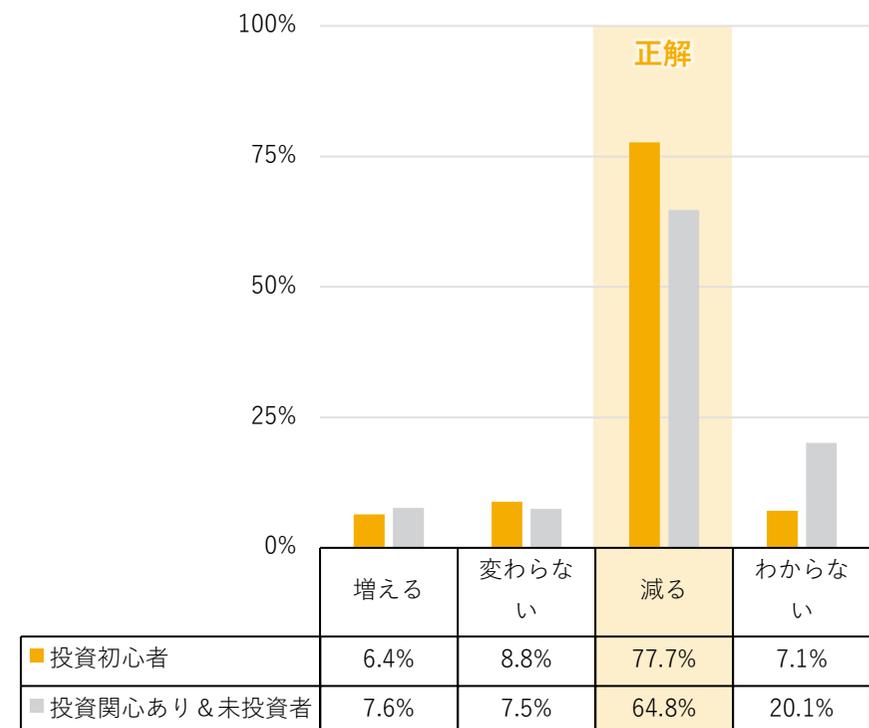
Q. 100万円を2%（年率）の単利で運用すると、1年後には102万円になります。100万円を2%（年率）の複利で運用すると、5年後にはいくらになっていると思いますか。

Q. インフレとは、モノの値段が継続的に値上がりする状態を指し、実質的なお金の価値が目減りします。インフレになると、1万円で購入できるモノの量は時間の経過とともにどうなると思いますか。

### ■複利計算



### ■インフレ

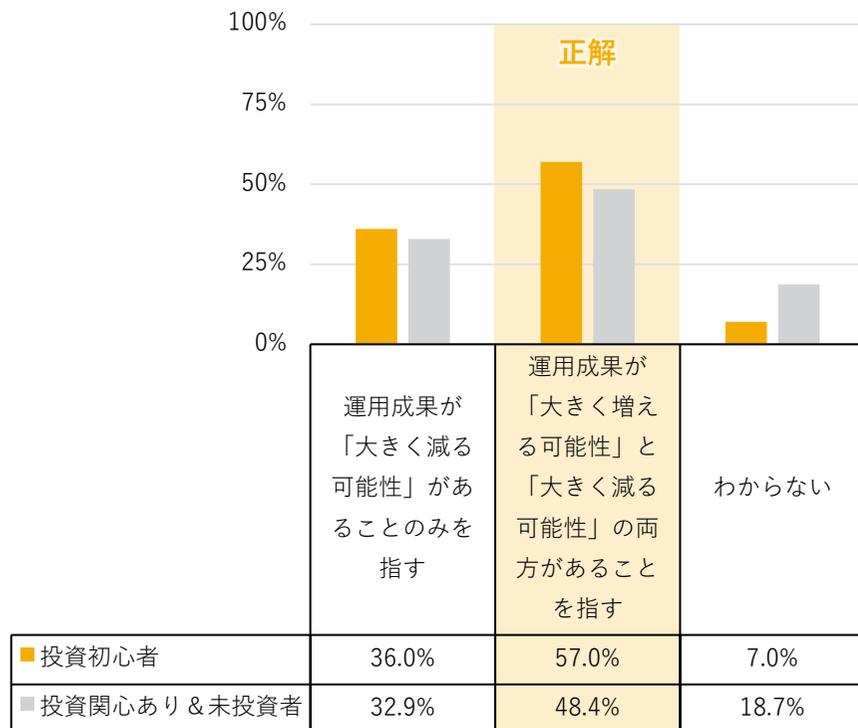


## 5-2-2. 【金融リテラシー】投資におけるリスクの意味/年金の認識

- 「投資におけるリスクの意味」では『投資初心者』は正答率が過半を上回り、『投資に関心のある未投資者』は過半を下回り 40%台だった。
- 「年金の認識」では『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに、正答率が過半を下回った。

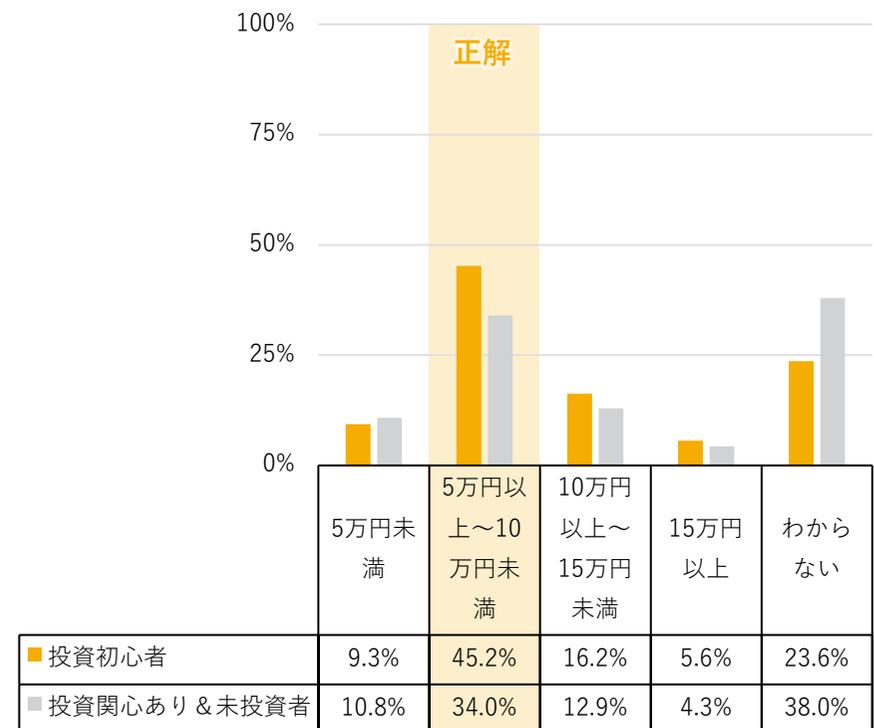
Q. 投資における「リスクが大きい」とは、どのような意味を指すと思いますか。

### ■投資におけるリスクの意味



Q. 原則65歳以上は全員、老齢基礎年金（国民年金）が受け取れます。保険料の納付期間である20歳から60歳までの40年間、漏れなく保険料を納付した場合、1カ月あたり何円の老齢基礎年金を受け取れると思いますか。※会社員などが上乘せとして受け取れる老齢厚生年金は含みません。

### ■年金の認識

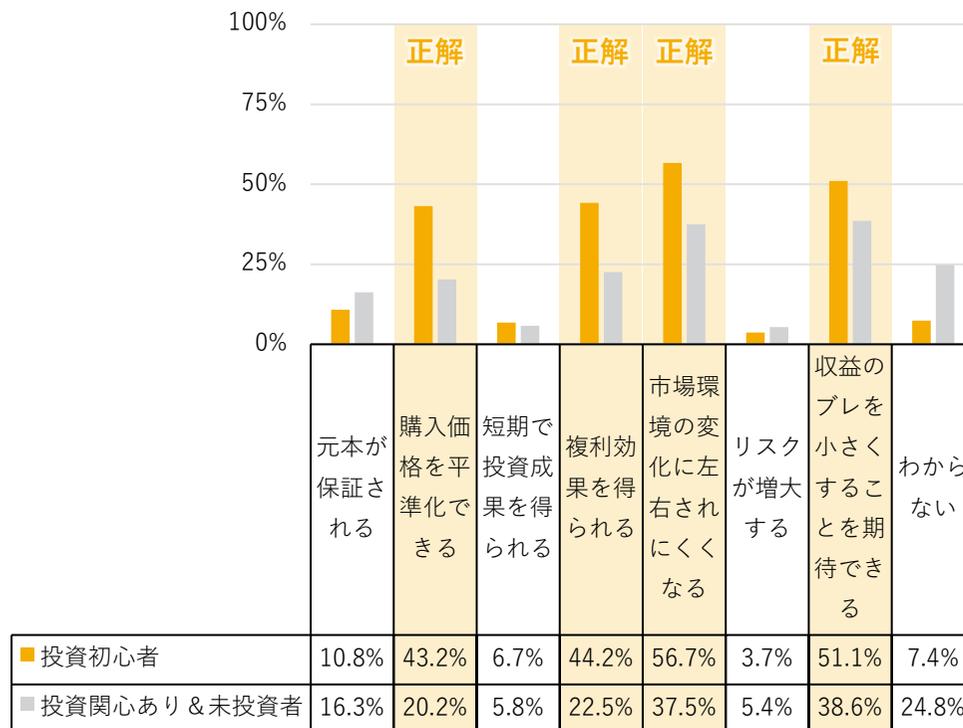


## 5-2-3. 【金融リテラシー】長期・積立・分散

- 「長期・積立・分散」の回答では、「市場環境の変化に左右されにくくなる」「収益のブレを小さくすることを期待できる」の選択肢において『投資初心者』は正答率が過半を上回った。
- 正答数の分布では、「0問」の割合が『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに最も高いが、両者の差は大きい。「4問」全問正解の割合は両者とも最も低いが、両者の差は大きい。

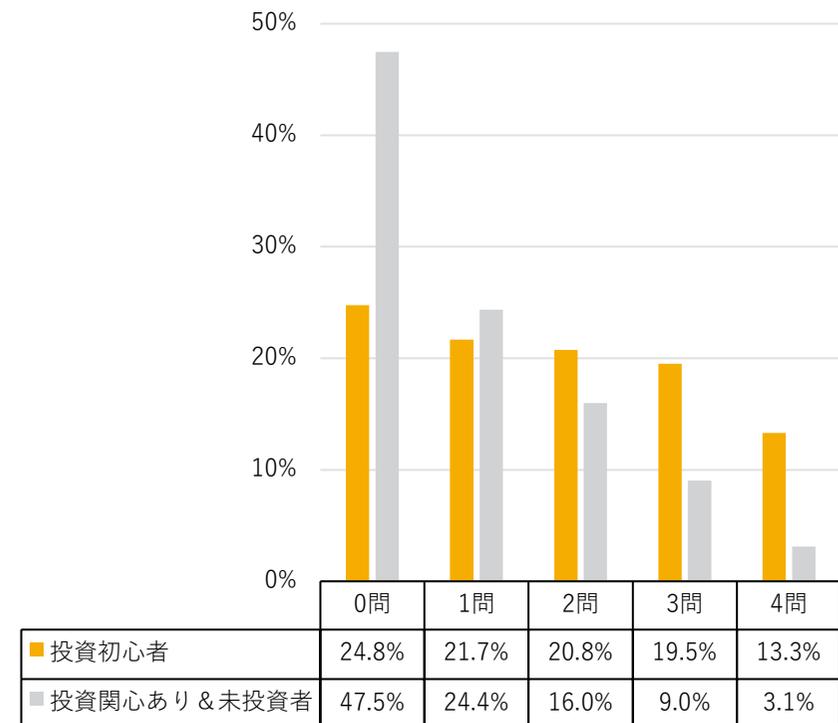
Q. 一般的に、投資で成果を上げるには「長期・積立・分散」投資をした方がよいと言われます。「長期・積立・分散」投資の効果として、あてはまると思うものをすべてお答えください。

■長期・積立・分散



\*複数回答可

■長期・積立・分散の正答数の分布

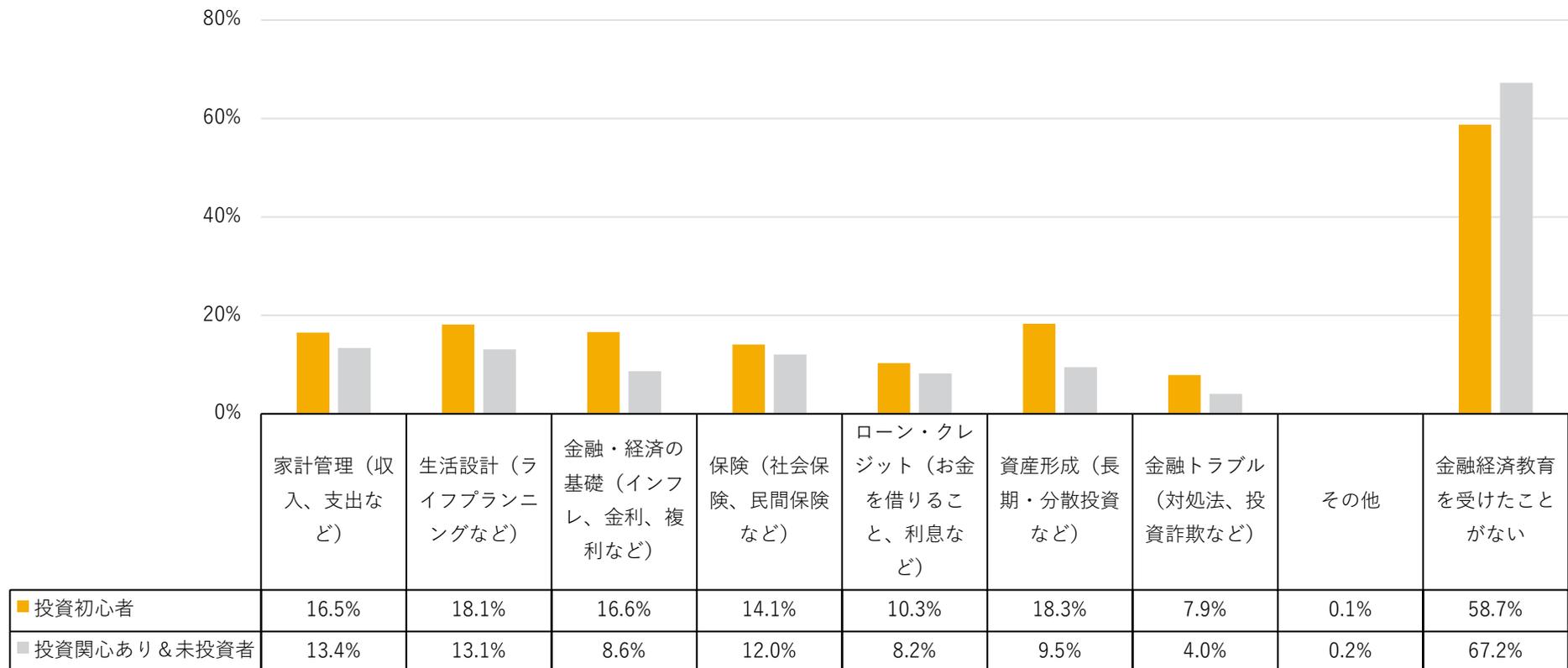


\*4つの正解のうち、何問正解できたか（不正解は選ばない）

## 5-3.金融経済教育の受講内容

- 『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに、「金融経済教育を受けたことがない」の割合が最も高い。

Q. あなたが受けたことがある金融経済教育の内容として、あてはまるものをすべてお答えください。

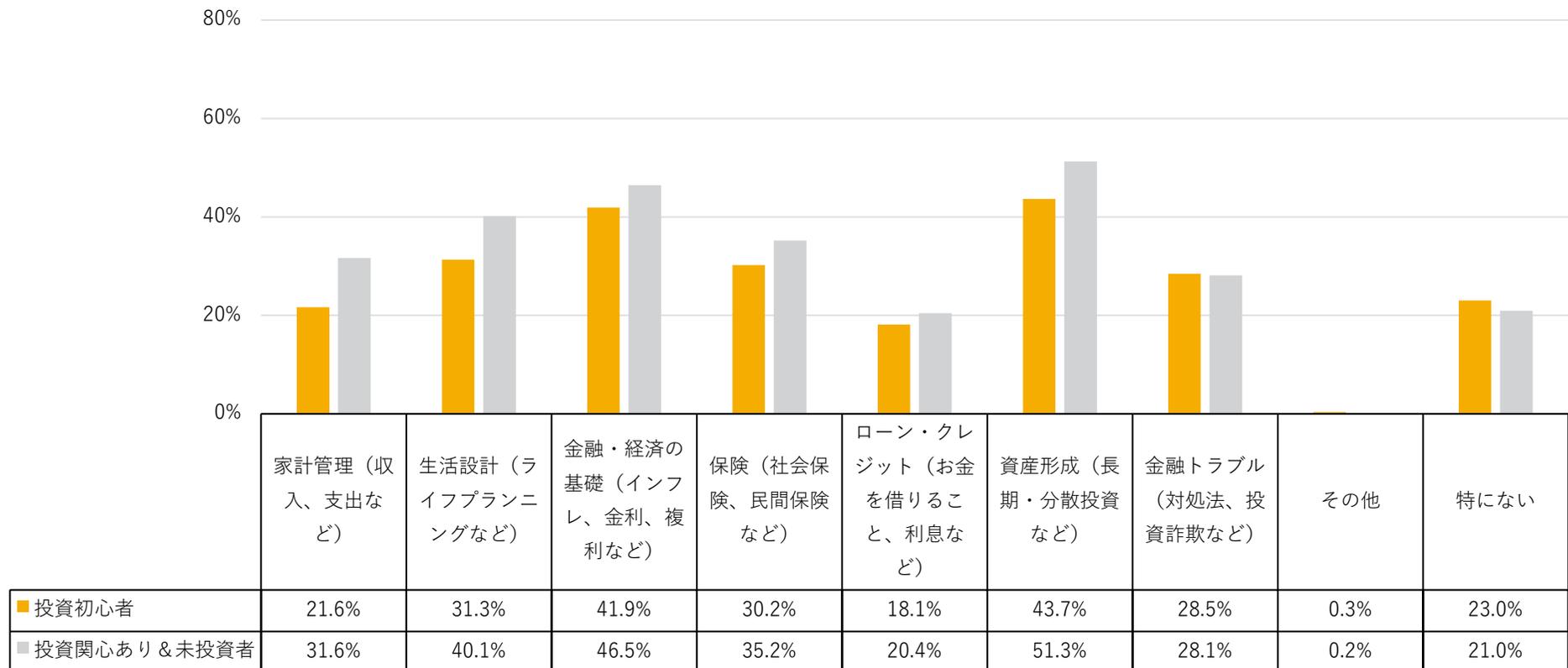


\* 複数回答可

## 5-4.今必要だが、不足していると感じる知識・情報

- 『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに、「資産形成（長期・分散投資など）」の知識・情報について不足を感じている割合が最も高い。

Q. 今のご自身に必要なだが、不足していると感じる知識・情報として、あてはまるものをすべてお答えください。



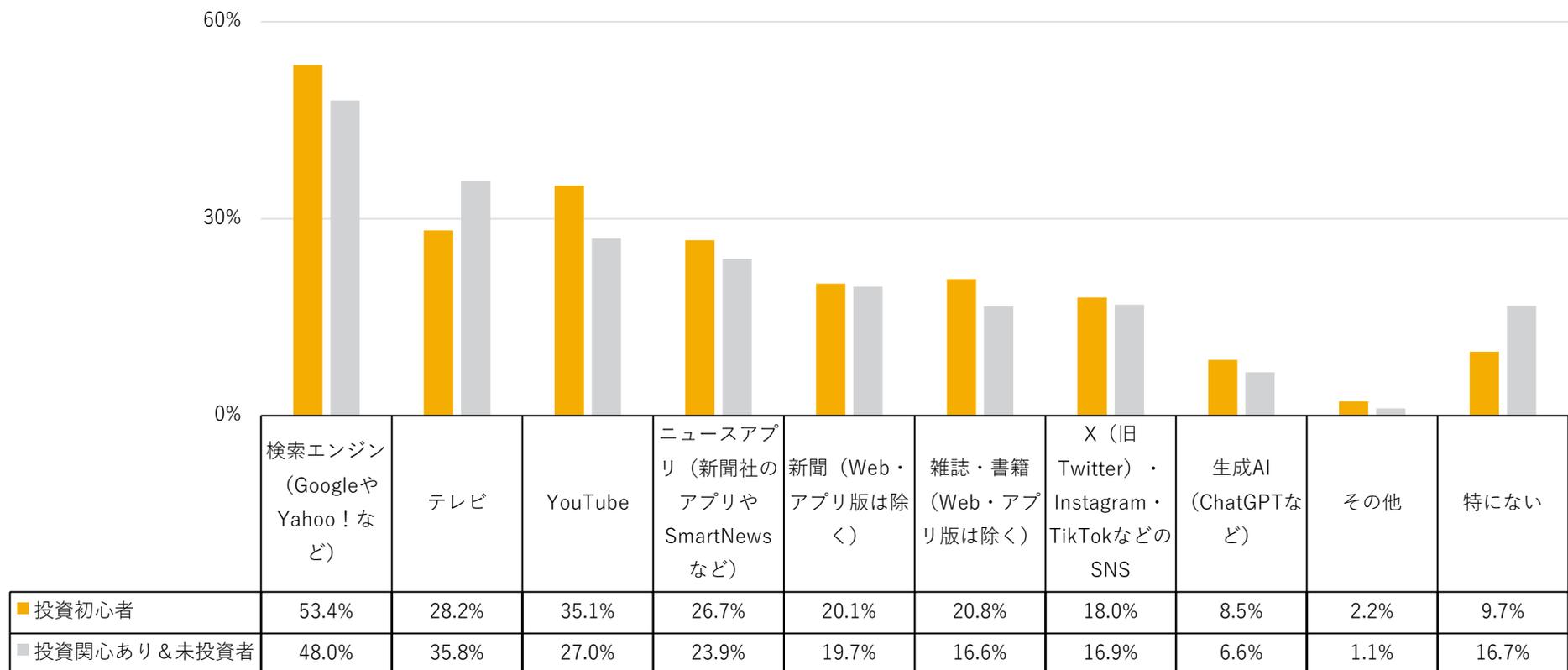
\* 複数回答可

## 6.情報収集手段とコミュニケーション人数

## 6-1.投資に関連する情報収集の手段

- 『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに、「検索エンジン」の割合が最も高い。
- いずれの選択肢も『投資に関心のある未投資者』と比べて『投資初心者』の割合が高い傾向がみられるが、「テレビ」と「特にない」の選択肢に限っては『投資に関心のある未投資者』の割合が高い傾向がみられた。

Q. あなたが利用しやすい情報収集の手段をお答えください。※投資に関連する情報収集の手段（3つまで）

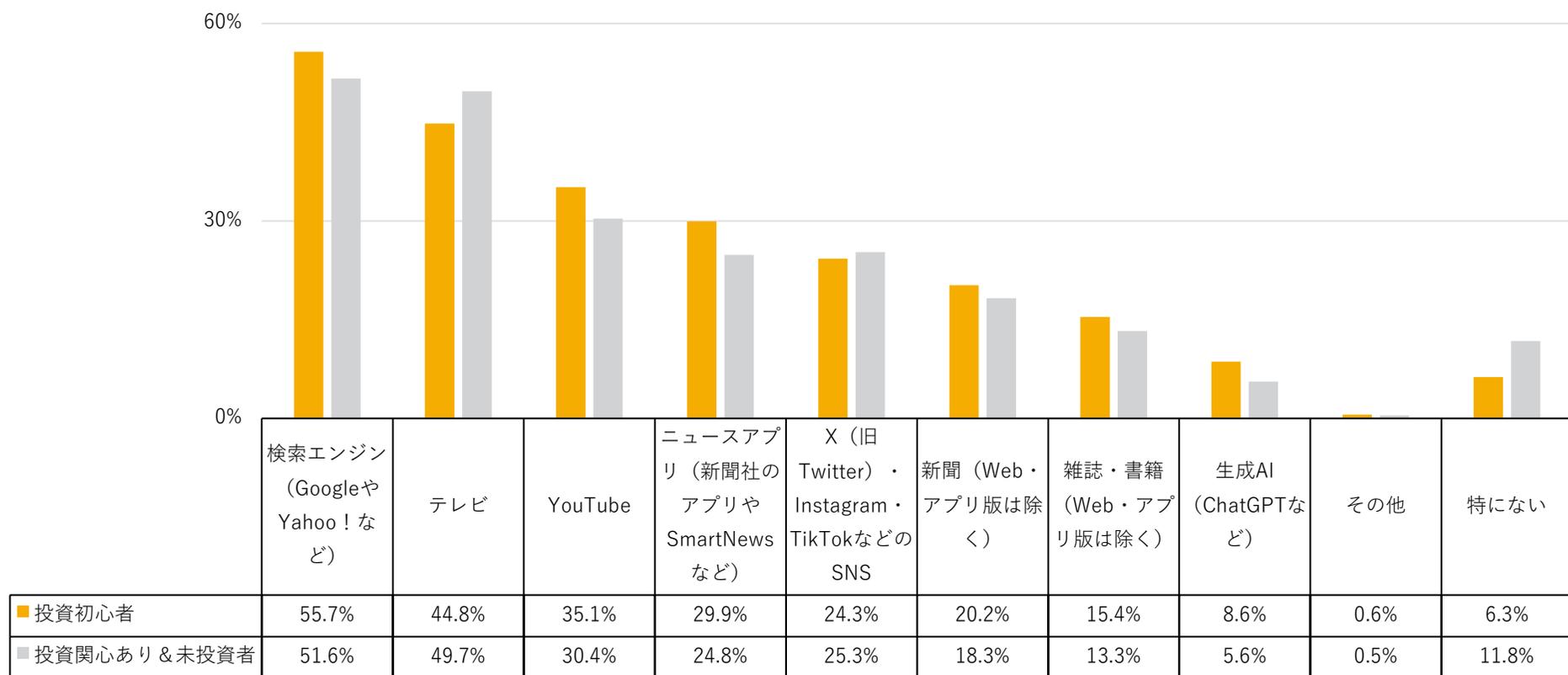


\* 上位3つまで回答可

## 6-2.日常生活に関連する情報収集の手段

- 『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに、「検索エンジン」の割合が最も高い。
- いずれの選択肢も『投資に関心のある未投資者』と比べて『投資初心者』の割合が高い傾向がみられるが、「テレビ」「SNS」「特にない」の選択肢に限っては『投資に関心のある未投資者』の割合が高い傾向がみられた。

Q. あなたが利用しやすい情報収集の手段をお答えください。  
 ※健康・衣食住・仕事・資産・学び・趣味など日常生活に関連する情報収集の手段（3つまで）

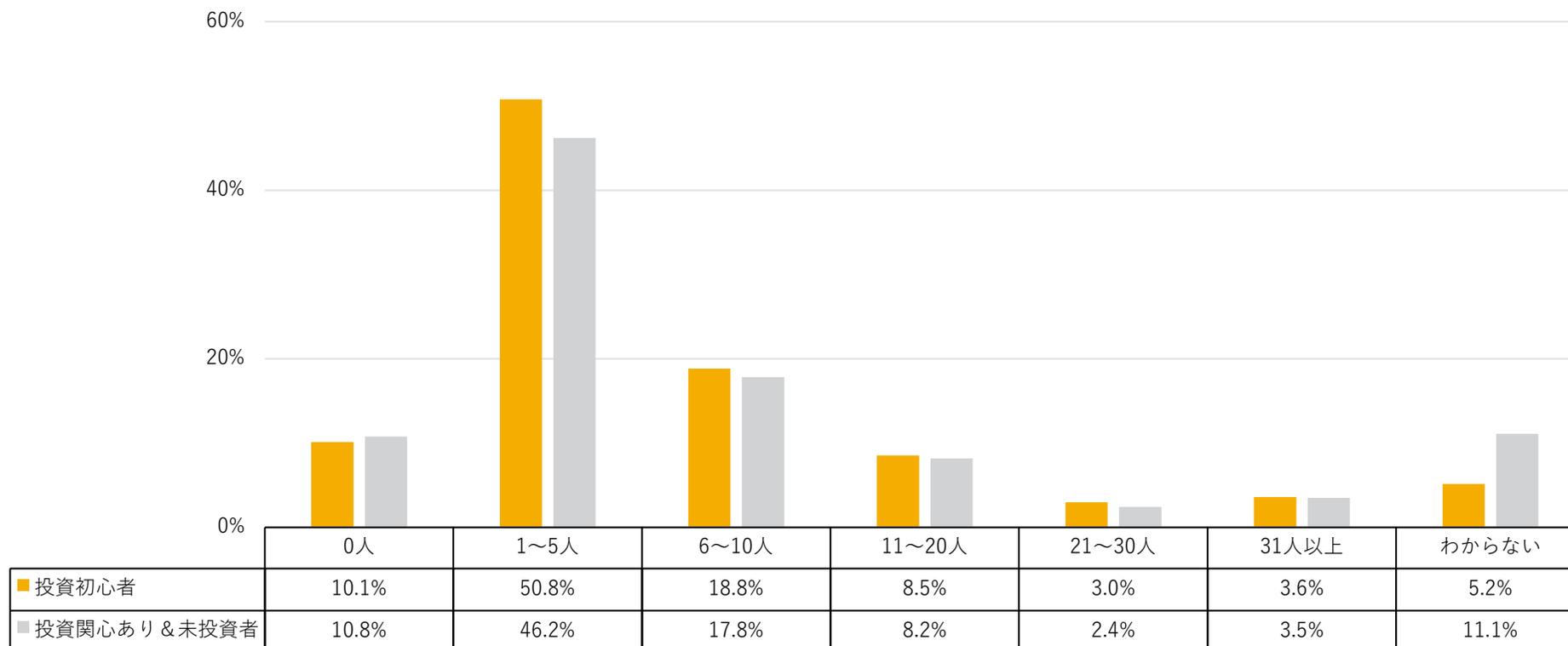


\* 上位3つまで回答可

## 6-3.1日あたりの双方向のコミュニケーション平均人数

■ 『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに「1～5人」の割合が最も高い。

Q. あなたは、1日の生活の中で、対面や電話などの音声による双方向のコミュニケーションを、平均何人とっていますか。  
※仕事を通じてのコミュニケーションも含めてお答えください。

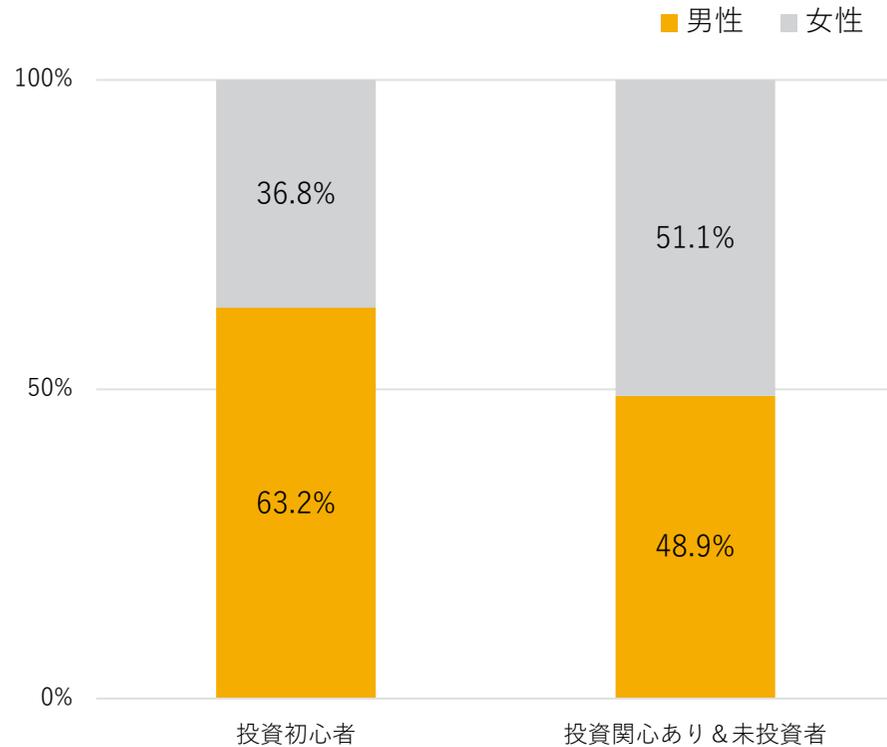


## 7.APPENDIX | 属性

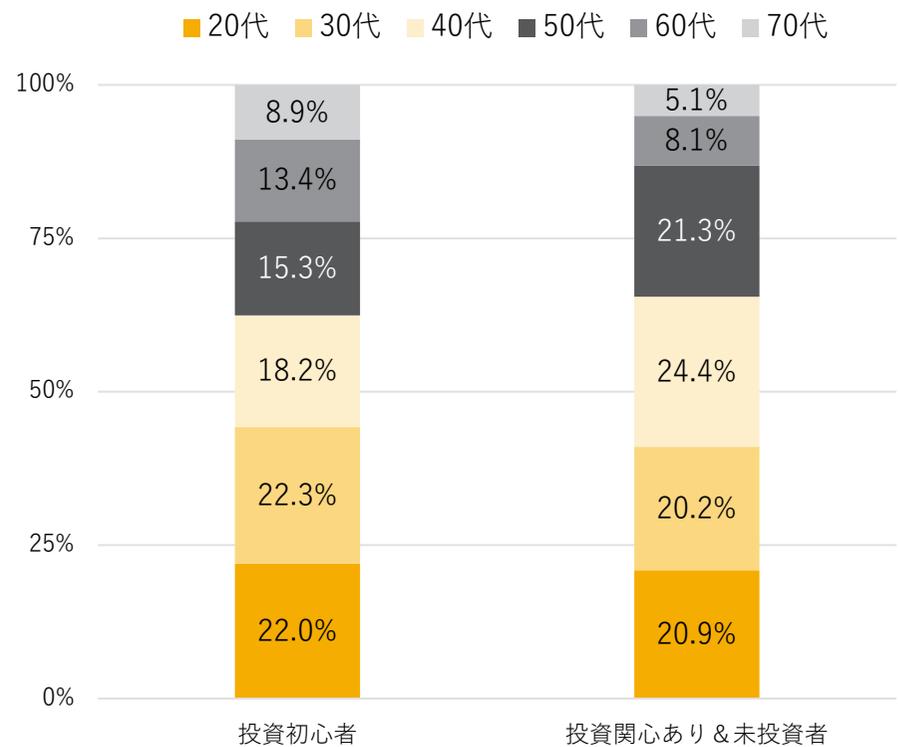
# 7-1.性別・年代構成比

- 性別構成比では、『投資初心者』は『投資に関心のある未投資者』と比べて、男性の割合が高い。
- 年代構成比では、『投資初心者』は30代の割合が最も高い一方、『投資に関心のある未投資者』は40代の割合が最も高い。

■性別構成比



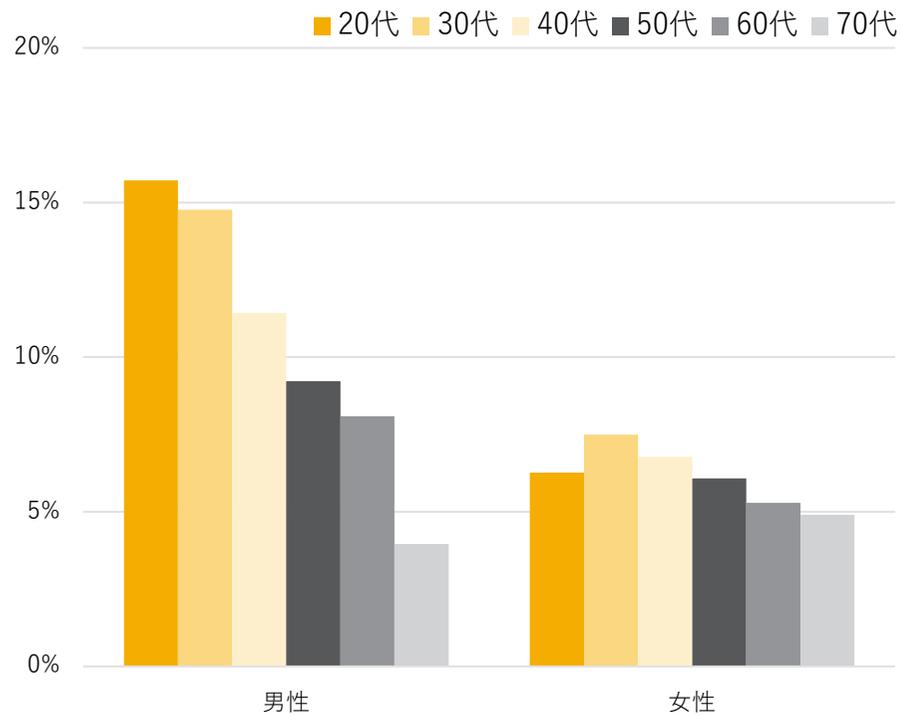
■年代構成比



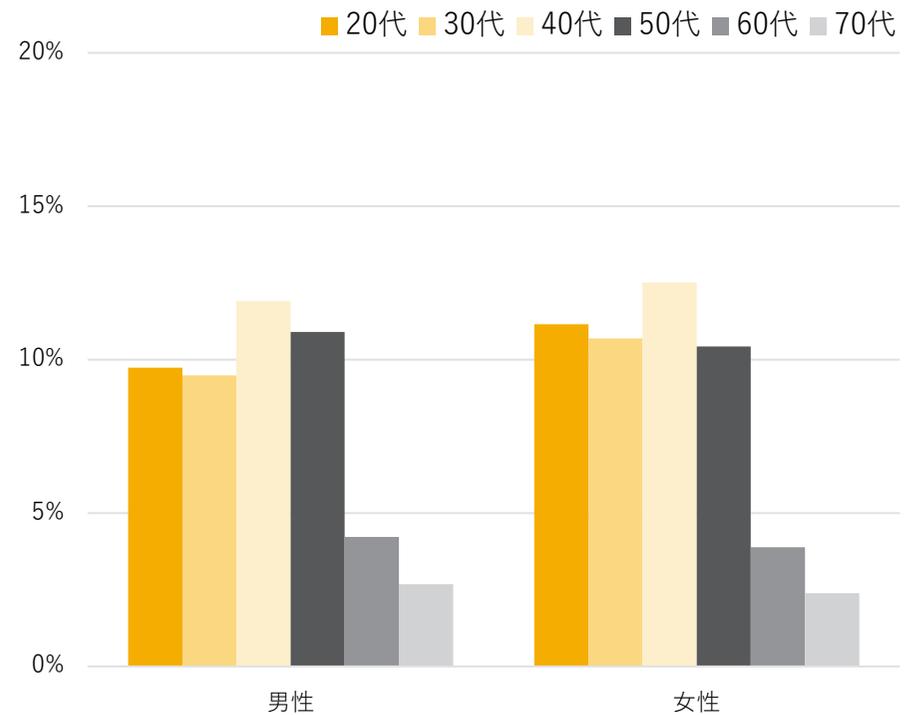
## 7-2.性別ごとの年代構成比

- 『投資初心者』における性別ごとの年代構成比では、男性は若年層ほど割合が高くなっている。女性は年代による傾向がゆるやかで30代の割合が最も高い。
- 『投資に関心のある未投資者』における性別ごとの年代構成比では、男女ともに40代の割合が最も高く、60・70代の割合が低い。

■ 【投資初心者】性別ごとの年代構成比（全体＝100%）



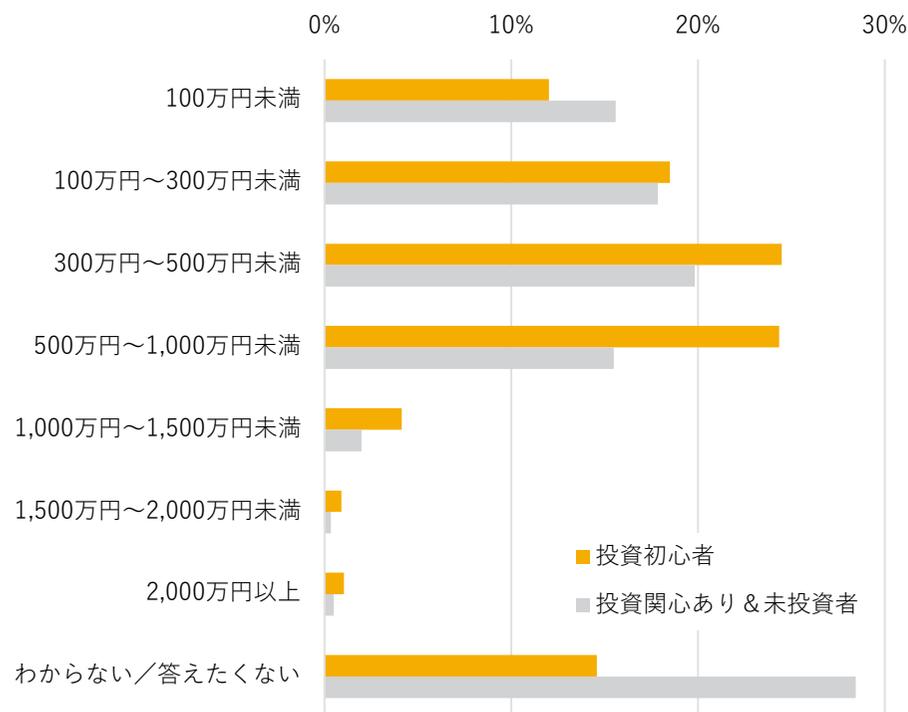
■ 【投資関心あり & 未投資者】性別ごとの年代構成比（全体＝100%）



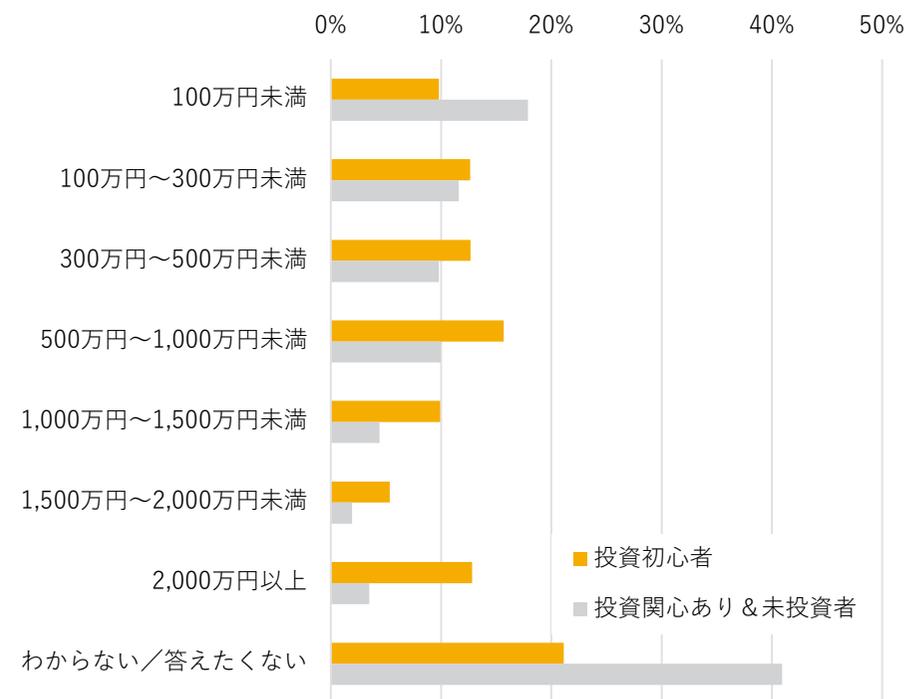
## 7-3.個人年収/個人の金融資産額

- 個人年収では「わからない/答えたくない」を除くと、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の両者ともに「300万円～500万円未満」の割合が最も高い。
- 個人の金融資産額では「わからない/答えたくない」を除くと、『投資初心者』は「500万円～1,000万円未満」の割合が最も高い一方、『投資に関心のある未投資者』は「100万円未満」の割合が最も高い。

■個人年収



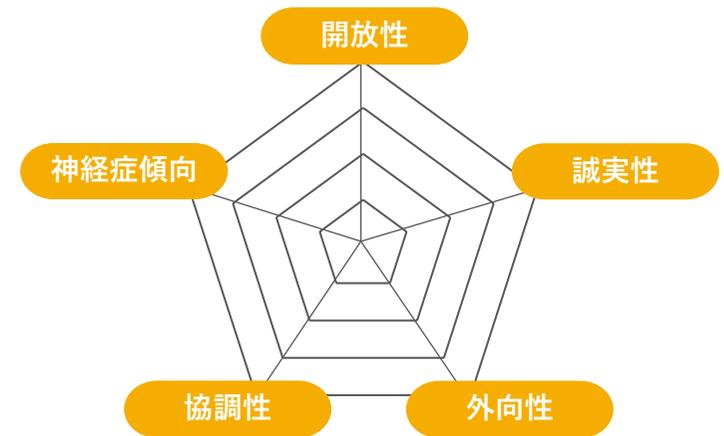
■個人の金融資産額



## 8.APPENDIX | パーソナリティの測定方法

# 8-1. パーソナリティの測定方法—Big Five—

- パーソナリティを測定する手法として代表的なものにBig Fiveがある。
- Big Fiveとは、人間が持つ様々な性格は、開放性（Openness）、誠実性（Conscientiousness）、外向性（Extraversion）、協調性（Agreeableness）、神経症傾向（Neuroticism）の5つの因子で説明できるとする心理学の理論である。
- パーソナリティの捉え方は、類型論と特性論の2つがあるが、Big Fiveは特性論の一種。「あなたの○○特性は3、△△特性は1、□□特性は5」など特性ごとにパラメータで表現し、量的な程度の差によって個人差を把握しようとする。



## ■ Big Fiveの各因子の特徴

	特性	スコアが高い人の傾向
開放性 (Openness)	外界の事物に対する認知の開かれ度合い	興味関心が広く、想像力に富み、好奇心が強い傾向
誠実性 (Conscientiousness)	真面目さ	責任感が強く、計画的に課題等に熱心に取り組む傾向
外向性 (Extraversion)	人や物事に対する積極性	活動的でポジティブな感情を感じやすい傾向
協調性 (Agreeableness)	対人関係における優しさや寛大さ	周囲に対して共感・同調する傾向
神経症傾向 (Neuroticism)	情緒の敏感さや気分の落ち込みやすさ	繊細で、不安やネガティブな感情を感じやすい傾向

\* 開放性は経験への開放性、誠実性は勤勉性、協調性は調和性、神経症傾向は情緒不安定性とも呼ばれる  
(出所) 各種資料より大和アセットマネジメント作成

## 8-2-1.Big Five Inventoryの設問と選択肢 (1/2)

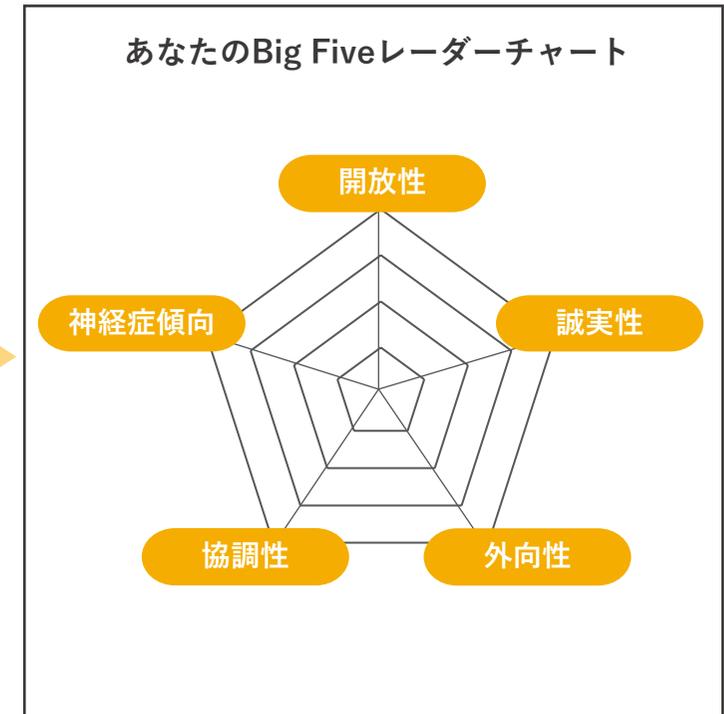
以下の項目について、あなたにあてはまるものをお答えください。

	非常に あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1. 新しいアイデアや経験に対して好奇心を持つ					
2. 芸術や音楽に強い関心がある					
3. 抽象的な考え方をするのが好きである					
4. 物事を計画的に進める方である					
5. 締め切りを守ることに強い責任感を持っている					
6. 整理整頓が得意である					
7. 人と話すことが好きである					
8. パーティーや集まりに積極的に参加する					
9. 初対面の人ともすぐに打ち解けられる					
10. 他人の気持ちに敏感に反応する					
11. 困っている人を見ると助けたくなる					
12. 対立を避け、円満な関係を築こうとする					
13. ストレスを感じやすい方である					
14. 小さなことで不安になりがちである					
15. 感情の浮き沈みが激しいと感じる					

\*非常にあてはまる…5点、ややあてはまる…4点、どちらともいえない…3点、あまりあてはまらない…2点、まったくあてはまらない…1点として、特性ごとに平均値を算出。3点台を「どちらともいえない=中間」として位置づけ、4-5点台を「高い」、1-2点台を「低い」と定義

## 8-2-2. Big Five Inventoryの設問と選択肢 (2/2)

		平均値
開放性	1. 新しいアイデアや経験に対して好奇心を持つ	
	2. 芸術や音楽に強い関心がある	
	3. 抽象的な考え方をするのが好きである	
誠実性	4. 物事を計画的に進める方である	
	5. 締め切りを守ることに強い責任感を持っている	
	6. 整理整頓が得意である	
外向性	7. 人と話すことが好きである	
	8. パーティーや集まりに積極的に参加する	
	9. 初対面の人ともすぐに打ち解けられる	
協調性	10. 他人の気持ちに敏感に反応する	
	11. 困っている人を見ると助けたいくなる	
	12. 対立を避け、円満な関係を築こうとする	
神経症傾向	13. ストレスを感じやすい方である	
	14. 小さなことで不安になりがちである	
	15. 感情の浮き沈みが激しいと感じる	

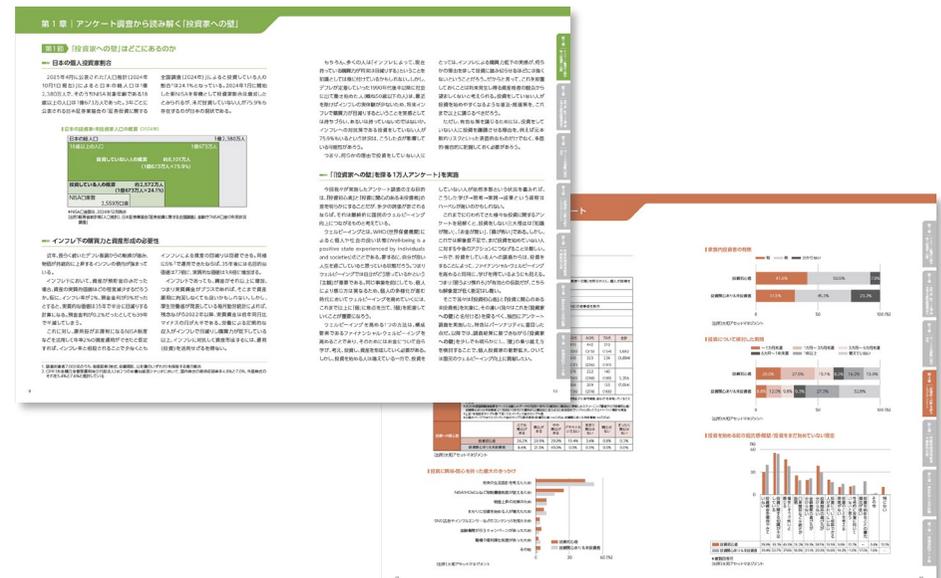
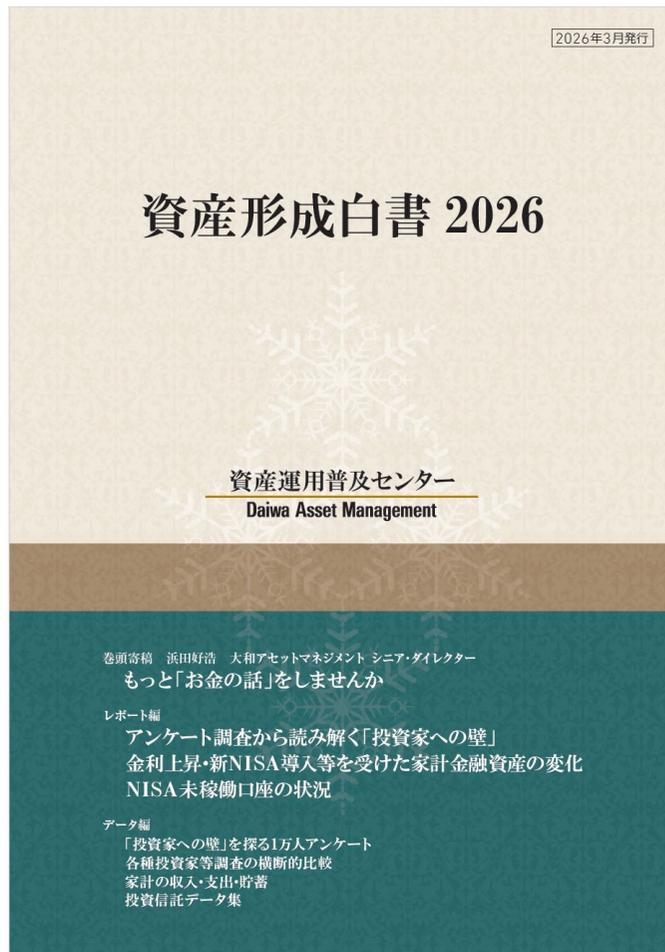


\* Big Fiveの測定方法には、Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) の10項目で測定する方法や、Big Five Inventory-2 (BFI-2) の60項目で測定する方法など様々なものがある。BFI-2については、短縮した30項目 (BFI-2-S) や15項目 (BFI-2-XS) も存在する。本調査では「日本語版Big Five Inventory-2」のうち15項目で測定する短縮版で公開されている事例を参考に、回答者がスムーズに理解・回答ができるよう設問文を調整したものをを使用した

# 「資産形成白書2026」のご案内

# 「資産形成白書2026」にて、当アンケートの分析レポートを掲載

資産運用普及センターが2026年3月に発行した「資産形成白書2026」では、当アンケート調査の分析レポートや抜粋した調査結果の図表を掲載しています。第1章の「アンケート調査から読み解く『投資家への壁』」では、パーソナリティに着目して深掘りした分析をしています。あわせてご覧いただけますと幸いです。



「資産形成白書2026」  
PDFはこちら



<https://www.daiwa-am.co.jp/hukyu-center/#sec06>

## 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

# 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

